# 中野正剛著作目録

松田　義男 編

改訂 2023 年 10 月 27 日
2003 年　5 月　4 日

## 凡例

*「1．著書」、「2．共著」、「3．評論等(新聞・雑誌掲載)」、「4．帝国議会衆議院演説」とに大別し、それぞれ年次順に配列した。

*未見の著作については*を付した。

*新聞・雑誌の連載は、初回掲載に一括した。

*雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。

*新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[　]で示したほか、無題の場合は[　]に示して仮題とした。その他、編者の注記は適宜[　]で示した。

*掲載雑誌の巻号数は、第 1 巻第 1 号→1-1 と表記し、日刊新聞の号数は省略した。

*新聞の朝刊・夕刊については、夕刊についてのみ、[夕刊]と注記した。

*中野正剛のペンネーム（「戎蛮馬」、「浩洞迂人」、「耕堂」、「耕堂迂人」、「二十六峰外史」）については、≪　≫に示した。雑誌目次と本文の署名が異なる場合、原則として本文の署名を採用した。本文無署名で目次に署名がある場合は目次の署名を採用した。

*『我観』、『東方時論』の時評については、詳細を【　】に示した。

本目録作成にあたっては、NHK 放送博物館、茨城県立図書館、大阪市立大学学術情報総合センター、大阪府立中央図書館、同中之島図書館、関西大学総合図書館、九州大学付属図書館、熊本県立図書館、群馬県立図書館、慶應義塾大学三田メディアセンター、県立長野図書館、神戸大学付属図書館、国立国会図書館、金光図書館、三康文化研究所附属三康図書館、島根県立図書館、昭和館、玉川大学図書館、東京大学総合図書館・社会科学研究所・社会情報研究所・法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫、教育学研究科・教育学部図書室、同志社大学今出川図書館、東洋文庫、名古屋大学付属図書館、成田山仏教図書館、日本近代文学館、日本大学総合学術センター、福岡市総合図書館、立教大学図書館、早稲田大学中央図書館より資料閲覧の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

# 1. 著書

『八面鋒 朝野の政治家』博文館、1911 年 10 月 28 日

『明治民権史論』有倫堂、1913 年 3 月 30 日[復刻：葦書房、1994 年]

『七擒八縦』東亜堂書房、1913 年 5 月 13 日

『我が観たる満鮮』政教社、1915 年 6 月 1 日[小島晋治監修『大正中国見聞録集成 第 1 巻』(ゆまに書房、1999 年)収録]

『世界政策と極東政策』至誠堂書房、1917 年 2 月 13 日

『世界改造の巷より』東方時論社[非売品]、1919 年 4 月 10 日

『講和会議を目撃して』東方時論社、1919 年 7 月 23 日

『現実を直視して』善文社、1921 年 2 月 16 日

『満鮮の鏡に映して』東方時論社、1921 年 3 月 15 日

『露西亜承認論』[3 月 20 日演説速記(於第 46 帝国議会衆議院)]東方時論社、1923 年 5 月 25 日

『中野正剛対露支論策集』岡野竜一編、我観社、1926 年 4 月 5 日

『田中外交の惨敗』平凡社、1928 年 12 月 17 日

『国民に訴ふ 中野正剛大演説集』平凡社、1929 年 4 月 5 日【我等は斯く戦へり[1928 年 2 月 24 日(於朝日講堂)]、孫文君の去来と亜細亜運動[1925 年 1 月]、錦旗を草莽の間に建てよ[1928 年 11 月 13 日]、対支重大問題の一問一答(1929 年 1 月 25～27 日(於帝国議会衆議院予算委員会)]、田中外交の責任解除[1929 年 1 月 30 日]、対支政策の更新[1928 年 7 月 31 日(於九州劇場)]、南洲翁五十年祭典に臨みて[1927 年 10 月 24 日(於鹿児島市)]、立憲民政党の本領[1928 年 7 月]、西伯利撤兵論[1921 年 2 月 5 日於第 44 帝国議会衆議院]、国民感情の握手[1925 年 10 月(於北京憲法起草委員倶楽部)]、白虎隊の墓を弔ひて[1928 年 8 月 30 日(於会津飯森山下)]、枢密院弾劾演説[1927 年 5 月 7 日(第 53 帝国議会衆議院)]、亡友の骨枯に對して[1925 年 2 月 22 日(於青山斎場)]】

『国家統制の経済的進出』平凡社、1930 年 7 月 15 日

『沈滞日本の更生』千倉書房、1931 年 8 月 1 日

『安達さんの心境を語る』千倉書房、1931 年 12 月 30 日≪伊豆豆人≫

『転換日本の動向』千倉書房、1932 年 1 月 30 日

『日本の動向』[5 月 7 日青山学院高等学部学友会経済学研究部主催講演会於青山学院講堂]＜『中央講演』第 2 輯＞東京中央講演会、1932 年 5 月 25 日

『駒井長官を迎へて満洲国即時承認を高調す』東京講演会、1932 年 8 月 10 日

『国家改造計画綱領』＜東方会叢書 第 1 輯＞千倉書房、1933 年 10 月 28 日

『帝国の非常時断じて解消せず』＜大毎講座 1 ＞大阪毎日新聞社編、大阪毎日新聞社・東京日日新聞社刊、1934 年 3 月 13 日

『政党政治の再建』農芸社、1934 年 6 月 25 日≪耕堂学人≫

『現状崩壊の過程と積極健全政策の提唱』＜『我観』13-1 別冊附録＞我観社、1935 年 1 月 1 日

『日本国民に檄す 北支風雲の煙幕を透して』我観社、1935 年 12 月 25 日

『日本拡大強化論　講演速記録』日本講演協会、1936 年 3 月 25 日

『昭和維新と官僚政府の役割』秀光書房、1936 年 8 月 18 日

『電力国営案に対し中野正剛氏所信を明かにす』電気連合通信社、1936 年 8 月 29 日

『支那をどうする 日支問題を如何に解決すべきか』今日の問題社、1936 年 10 月 18 日

『中野正剛氏大演説集』朝風社、1936 年 11 月 21 日【国家改造の指標[1933 年 11 月 2 日東方会大演説会(於日比谷公会堂)]、日本拡大強化論[1935 年 11 月 12 日早大主催時局大演説会(於大隈講堂)]、聯盟脱退に直面して[1933 年 2 月 21 日国民大会(於日比谷公会堂)]、非常時は解消せず[1934 年 1 月 25 日(於第 65 帝国議会衆議院)]、満州事変直後の政変観[1932 年 1 月 15 日国民同盟演説会(於日本青年館)]、国民感情の握手[1925 年 10 月(於北京憲法起草委員倶楽部)]、統制経済と非常時国策[1936 年夏(於国民新聞社主催座談会)]、満州国即時承認を高調す[1932 年 8 月 2 日駒井満州国総務長官歓迎会(於東京会館)]、南洲翁五十年祭典に臨みて[1927 年 10 月 24 日(於鹿児島市)]、東亜民族の一大結成[1932 年 10 月 5 日(於国民同盟本部)]、東洋の支柱、日本[1936 年 9 月 10 日東京日日新聞社主催渡辺、深川両氏追悼会(於日本青年館)]】

『支那は極東のスペインか? 対支外交再検討の秋』東大陸社、1936 年 12 月 29 日[「付」として「積極日本主義こそ革新諸政策の基調」を収録]

『積極拡大主義の危険性と合理性　中野正剛君議会演説』東大陸社、1937 年 3 月 5 日

『日本は支那を如何する』育生社、1937 年 11 月 15 日

『独・伊より帰りて日本国民に訴ふ』[独伊訪問帰朝報告演説会(於日比谷公会堂)]銀座書房、1938 年 3 月 25 日

*『伊・独両元首との時局論争』[日本外交協会第 242 回例会]日本外交協会、1938 年 3 月

『魂を吐く』金星堂、1938 年 5 月 10 日[改訂増補：振東社、1940 年]

『真直ぐに行け』育生社、1938 年 5 月 20 日

『対支国策の根幹を論ず』東方会西日本支部、1939 年 7 月 10 日

『時局打開国民運動講演速記録』[7 月 5 日講演於湊川公園市立勧業館]時局海上協議会事務局、1939 年 7 月 31 日

『難局打開の経綸』東大陸社、1940 年 1 月 20 日

『敗戦主義を打倒せよ』東方会、1940 年 4 月 5 日

『日独伊三国同盟と日本の動向』振東社、1940 年 12 月 5 日

『東方会の旗は進む』東京講演会出版部、1941 年 4 月 25 日

『難局打開の体当り』[5 月 1 日難局突破国民有志大会後援速記於国技館]東方会出版部、1941 年 6 月 10 日

『難局突破の指標　新体制実践綱領』新東学社、1941 年 6 月 25 日

『新らしい政治の方向』東大陸社出版部、1941 年 9 月 5 日

『ルーズヴェルト、チャーチルに答へ日本国民に告ぐ』東方会宣伝部、1941 年 10 月 5 日

『此一戦 国民は如何に戦ふべきか! 』東方会、1942 年 1 月 30 日[「声明」、「国民は如何に戦ふべきか」(1941 年 12 月 17 日総蹶起国民大会演説速記於国技館)、「此一戦」(『公論』5-1、1942 年 1 月 1 日)収録]

『戦争に勝つ政治』東方会、1942 年 3 月 25 日[武蔵野書房刊、1943 年]

『世界維新の嵐に立つ』鶴書房、1942 年 4 月 20 日

『太閤秀吉』東方同志会出版局、1943 年 2 月 15 日

『遺稿 建武中興史論』正剛会、1953 年 11 月 20 日

『玄南文集』中野達彦・泰雄、1975 年 10 月 27 日

**刊行年未詳**

『大東亜戦争下の東方会運動』＜国立国会図書館憲政資料室所蔵「中原謹司関係文書」1770＞

## 2. 共著

妖僧ラスプーチン暗殺さる『阿修羅帖』第 3 巻、伊東忠太・杉村広太郎著、国粋出版社、1921 年 2 月 15 日

外交及財政に関する質問(一月二十五日)『第四十五議会衆議院十大演説集』東方時論社、1922 年 5 月 5 日

国務大臣に対する質問演説[2 月 24 日衆議院]『第四十六回帝国議会貴衆両院大演説集』渡辺鬼子松編、帝国連合青年会、1923 年 4 月 18 日

日露国交の精神的要素『露西亜承認論』東方時論社、1923 年 6 月 8 日

東洋の愛蘭たらむ－大正十年二月二十五日衆議院－『帝国議会雄弁史』弘田勝太郎編、事業之日本社、1925 年 4 月 28 日

労資問題『五分間模範演説集』東京雄弁協会編、国華堂本店、1926 年 9 月 20 日[復刊：東京雄弁協会編『正しき演説』(大阪堂、1931 年)]

挺身難に当るの心 南洲翁の五十年祭典に臨みて[1927 年 10 月 24 日於鹿児島]『現代名演説集』＜『雄弁』19-1 別冊附録＞大日本雄弁会講談社、1928 年 1 月 1 日

[2 月 24 日演説於第 19 回朝日民衆講座]『我等斯く戦へり 普選の第一戦陣』＜朝日民衆講座第 4 輯＞朝日新聞社、1928 年 3 月 8 日

枢密院弾劾案の説明演説[「衆議院に於ける演説」]『明治・大正・昭和政界名士大雄辯集』箕輪要編・中野正剛監修、雄弁研究会、1928 年 4 月 23 日

立憲民政党の立場[「政談演説」]『明治・大正・昭和政界名士大雄辯集』箕輪要編・中野正剛監修、雄弁研究会、1928 年 4 月 23 日

壇上に於ける自己表現『雄弁学講座 中巻』＜改訂増補＞雄弁学会編、潮文閣、1928 年 10 月 5 日[『雄弁学講座 中巻』＜改訂増補＞(成光館出版部、1929 年 2 月 1 日)、『雄弁学講座 全』＜改訂増補・合本＞(潮文閣, 1929 年 8 月 10 日)収録。6 版（1931 年 11 月 3 日）の復刻新装版：成光出版企画、1983 年]

選挙第一主義の暴露『大衆政治の言論戦』帝国政治雄弁協会編、文華堂、1929 年 3 月 10 日[宗孝社、1932 年 2 月 1 日]

雄弁は爆裂弾だ 真剣なる憂国の叫びが議会雄弁『議政壇上を直視して 附・第五十六帝国議会の演説集』渡辺貴知郎編、普選徹底会出版部、1929 年 5 月 15 日[国立国会図書館所蔵版では 18 日刊に訂正]

満洲某重大事件に関する一問一答『議政壇上を直視して 附・第五十六帝国議会の演説集』渡辺貴知郎編、普選徹底会出版部、1929 年 5 月 15 日[国立国会図書館所蔵版では 18 日刊に訂正]

鋭角的対立『再び政友会内閣出現せば日本は何うなる』民衆社、1930 年 1 月 28 日

美辞麗句より内容[「名士の演説苦心談」]『演説の仕方と聴き方 附 政界名士演説集』青年雄弁会編、春江堂、1930 年 3 月 5 日[改題『五分間演説の仕方』青年雄弁会編、春江堂、1935 年 3 月 5 日]

日本経済界の再構築『甦生期の日本に呼びかける』民衆通信社、1930 年 11 月 10 日

『如何にして農村を救ふべきか　農村応急対策座談会』東京日日新聞経済部編、創造社、1932 年 7 月 15 日[6 月 11 日、大阪毎日・東京日日新聞社主催農村応急対策座談会(於東京会館)：東武、有馬頼寧、内ケ崎作三郎、小川郷太郎、岡田温、大口喜六、加藤完治、加藤知正、上山満之進、後藤文夫、杉山元治郎、千石興太郎、添田敬一郎、東郷実、那須皓、深井英五、福沢泰江、松村謙三、三土忠造、森恪、

矢作栄蔵、矢野恒太ほか]

処女演説の感想『五分間演説と挨拶』紀室公民著、興風書院、1932 年 12 月 10 日

敢然として我往かん『時局大熱論集 熱烈火を吐く 敢て九千萬同胞に訴ふ』＜『現代』14-4 別冊付録＞大日本雄弁会講談社、1933 年 4 月 1 日

新興日本の指標『時局問題　非常時国民大会』＜『キング』9-5 別冊付録＞大日本雄弁会講談社、1933 年 5 月 1 日

我子を山に捧ぐー長男克明、穂高遭難の顛末記ー『日本山岳遭難史』春日俊吉著、三省堂、1933 年 5 月 10 日

教育の核心と実際化『井上先生追慕録』井上善吉編・刊、1933 年 6 月 25 日

大亜細亜に立脚して『現代青年に与ふ』＜『雄弁』24-8 付録＞大日本雄弁会講談社、1933 年 8 月 1 日

西郷南洲翁の心境[1927 年 10 月 24 日講演於鹿児島市南洲翁五十年祭典]『現代名家大演説集』大日本雄弁会講談社、1933 年 12 月 10 日

非常時国家改造の動向[講演]『彙報別冊』66、全国経済調査機関連合会、1933 年[12 月]

力の外交『非常時国民全集・外交篇』中央公論社[非売品]、1934 年 1 月 1 日

[短歌一首]『名士讃歌撰集 上』末次早代子編著、人物讃歌刊行会、1934 年 8 月 14 日

日本の進むべき道『大雄弁家名演説集 面白くて為になる美談逸話格言俚諺警句百出』＜『雄弁』27-1 附録＞大日本雄弁会講談社、1936 年 1 月 1 日

当局の猛省を促す[9 月 10 日、東京日日・大阪毎日新聞特派員渡辺洸三郎、上海毎日新聞編輯長深川経二追悼講演会於日本青年館]『危機線上の日支』東京日日新聞社・大阪毎日新聞社、1936 年 9 月 27 日

序『冀東綜覧』神田隆介著、東洋事情研究会、1936 年 9 月 28 日

世界に於ける支那問題『支那経済事情講話』東京商工会議所編、森山書店、1936 年 11 月 12 日

対支政策の改建と其の方途『日本経済の再編成 第一輯 総説篇』経済情報社編・刊、1937 年 9 月 12 日

日独伊の提携を強化せよ[1937 年 11 月演説於日比谷公会堂]『諸名家大熱弁集 起て!国家総動員の秋』＜『雄弁』第一付録＞大日本雄弁会講談社、1938 年 1 月 1 日

跋『日支事変外交観』(本多熊太郎著)千倉書房、1938 年 10 月 16 日

日本外交の指導原理『全体主義政策綱領』中野正剛・杉森孝次郎編、育生社、1939 年 2 月 20 日

金子雪斉翁と大陸経綸『大陸経営とその先駆者を語る』森田英亮編、金星堂、1939 年 2 月 20 日[『評判叢書 第一』(天佑書房、1940 年)収録]

断乎・所信を貫徹すべし『英国を追放すー対英外交大演説集ー』報知新聞社、1939 年 7 月 17 日

[9 月 11 日演説速記(於軍人会館)]『新体制とは何か』＜読売新聞社主催新体制大講演集＞亜細亜出版社、1940 年 10 月 15 日

外交新体制[9 月 14 日新体制問題講演会於日比谷公会堂]『新体制問題大雄弁録』新興之日本社、1940 年 11 月 8 日

諸君・驀制せよ[1940 年 11 月 20 日講演速記(於中央公会堂)]『一億国民の真魂に愬ふ 大政翼賛運動の本旨』大政翼賛運動実践会、1941 年 1 月 1 日

諸君驀進せよ『大政翼賛運動の本旨 附・戦陣訓』東亜新聞大阪支社文化部、1941 年 1 月 1 日

諸君驀進せよ『新体制処世雑話 大政翼賛運動の本旨』大政翼賛運動実践会、1941 年 1 月 1 日

外交新体制[1940 年 9 月 14 日新体制講演会講演筆記於日比谷公会堂]『新体制論』帝都日日新聞社、1941 年 1 月 22 日

新体制の真髄『新体制国民読本 新体制早わかり決定版』大政翼賛宣揚会編・刊、1941 年 1 月 23 日

日米関係の現在と将来『日米危機とその見透し』[政経懇話会叢書 第 1 輯]新経済情報社、1941 年 2 月 22 日[第 2 回関西政経懇話会於大阪倶楽部]

ヒトラーとムツソリーニ『新体制処世雑話 護る銃後の戦陣訓』啓徳社出版部、1941 年 3 月 25 日

新体制下の日本とナチス・ドイツ－皇道全体主義的指導原理の確立－『新体制下日本はどうなる』東亜書院、1941 年 4 月 3 日

国民は如何に戦ふべきか[12 月 17 日於国技館]『大東亜の聖戦 米英撃滅世界新秩序建設へ』国民新聞社、1941 年 12 月 23 日

戦ひの理想『勝利の記録』国民新聞社、1942 年 2 月 28 日

自己を活発に表現せよ[談]／映画にしてほしい菅沼貞風・徳富蘇峰[談]『名士、映画を語る』井戸川渉著、前田書房、1942 年 9 月 20 日

日本青年に苦言す『大東亜建設論集』山口高等商業学校東亜経済研究会編、生活社、1943 年 1 月 30 日[1942 年 5 月講演於山口高等商業学校東亜経済研究会主催第 17 回夏期講演会]

推薦の辞－当時を回想す－『清水芳太郎全集 第四巻』錦城出版社、1943 年 5 月 30 日[増進堂、1945 年]

総選挙と東方会[昭和 17 年収録]／米英撃滅を重点とせよ[昭和 17 年収録]／国民的政治力を結集せよ[昭和 17 年収録]『大正・昭和戦前期政治・実業・文化演説・講演集 SP 盤レコード文字化資料』日外アソシエイツ、2015 年 4 月 25 日

## 3. 評論等(新聞・雑誌掲載)＜993 篇＞

### 1902(明治 35)年

*菊池寂阿公『修猷館同窓会雑誌』2、2 月[『玄南文集』収録]

### 1903(明治 36)年

*修養論『修猷館同窓会雑誌』3、6 月[『玄南文集』収録]

*西郷南洲の片影『[修猷館]同窓会雑誌』4、12 月[『玄南文集』収録]

### 1904(明治 37)年

*南柯の一夢『修猷館同窓会雑誌』6、6 月 20 日[『玄南文集』収録]

遠地の友に『修猷館同窓会雑誌』7、12 月 6 日≪なかの生≫[『玄南文集』収録]

世の苦学生に与ふる書に擬す『修猷館同窓会雑誌』7、12 月 6 日≪なかの生≫[『玄南文集』収録]

### 1905(明治 38)年

征露戦争に於て得たる偉大なる教訓と好時機『修猷館同窓会雑誌』8、2 月 23 日[『玄南文集』収録]

遥に柔道部員及び新入生諸君に告ぐ[阿部真言との連名]『修猷館同窓会雑誌』9、6 月 28 日[『玄南文集』収録]

早稲田の里より『修猷館同窓会雑誌』9、6 月 28 日[『玄南文集』収録]

*西欧十九世紀の支配者『修猷館同窓会雑誌』10、11 月[『玄南文集』収録]

### 1906(明治 39)年

*人材論『修猷館同窓会雑誌』11、2 月[『玄南文集』収録]

### 1907(明治 40)年

*帰郷雑記『修猷館同窓会雑誌』14、2 月[『玄南文集』収録]

*活動進取の快『修猷館同窓会雑誌』14、2 月[『玄南文集』収録]

*西郷南洲手抄言志録を読む『修猷館同窓会雑誌』12 月[『玄南文集』収録]

### 1908(明治 41)年

日南先生を懐ふ『九州日報』2 月 14 日

*咳唾瓦礫『修猷館同窓会雑誌』2 月[『玄南文集』収録]

## 1909(明治 42)年

清国憲政問題今後の予想『日本及日本人』506、4 月 1 日≪浩洞迂人≫

清国に於ける立憲政治の価値『日本及日本人』507、4 月 15 日≪浩洞迂人≫

土佐の民権婆さんと語る『日本及日本人』508、5 月 1 日≪浩洞迂人≫

清国の立憲問題[「雑纂」]『東邦協会々報』173、174、7 月 20 日、8 月 20 日≪浩洞迂人≫

東北遊覧記『東京日日新聞』7 月 30 日、8 月 3、5～7、10～13、15、22 日[『知られたる秋田』(滝沢武編・刊、1909 年)収録]

進歩党両派の融和『日本及日本人』520、11 月 1 日≪浩洞迂人≫

読南洲言志錄『心の友.』5-11、12、11 月 10 日、12 月 10 日≪浩洞迂人≫

## 1911(明治 44)年

大俗公と大通侯『東京朝日新聞』5 月 17～20 日≪戎蛮馬≫[『八面鋒 朝野の政治家』収録]

朝野の政治家『東京朝日新聞』6 月 1～21、23～30 日、7 月 1～9、11～19 日≪戎蛮馬≫[『八面鋒 朝野の政治家』収録]

対岸の火災『東京朝日新聞』12 月 18～22 日≪戎蛮馬≫

## 1912(明治 45・大正元)年

孫黄両氏の風采『東京朝日新聞』1 月 7 日≪戎蛮馬≫[「孫逸仙・黄興両氏の風采」と改題『魂を吐く』収録]

南京の白宮『東京朝日新聞』1 月 12 日≪戎蛮馬≫

中華民国新内閣『東京朝日新聞』1 月 12、13 日≪戎蛮馬≫

元帥府夜話『東京朝日新聞』1 月 14 日≪戎蛮馬≫

南京見聞余禄『東京朝日新聞』1 月 16、21、26 日≪戎蛮馬≫

滬寧漫録『東京朝日新聞』1 月 22～25 日≪戎蛮馬≫

帰舟余禄『東京朝日新聞』1 月 28～30 日、2 月 1、2 日≪戎蛮馬≫

[「総選挙に対する質問三ヶ条」]『新日本』2-5、5 月 1 日

寺内總督論『新日本』2-6、6 月 1 日≪戎蛮馬≫

岡崎邦輔論『新日本』2-8、8 月 1 日≪戎蛮馬≫

明治民権史論『東京朝日新聞』10 月 2 日～17、19～25、27～31 日、11 月 1～9、11、13～16、18～20、22、23、25～30 日、12 月 1～10、12～17、19、21～29 日、1913 年 1 月 1、3、5、7～25 日≪耕堂≫[1、2、8 を『新聞集成大正編年史 大正元年度版』(明治大正昭和新聞研究会、1978 年)収録]

戎蛮馬を葬るの辞『新日本』2-11、11 月 1 日

尾崎行雄論『新日本』2-11、11 月 1 日

## 1913(大正 2)年

原敬と犬養毅[「現代人気者」]『実業之世界』10-1、1 月 1 日

岡崎邦輔と尾崎行雄[「現代人気者」]『実業之世界』10-1、1 月 1 日

安達謙三論『新日本』3-1、1 月 1 日

桂公に与ふるの書『東京朝日新聞』1 月 26～30 日≪耕堂迂人≫[『七檎八縦』収録]

大隈伯に与ふる書『東京朝日新聞』1 月 31 日～2 月 4 日≪耕堂迂人≫[『七檎八縦』収録]

新首相桂太郎論『新日本』3-2、2 月 1 日

政商輩に与ふる書『東京朝日新聞』2 月 5～11 日≪耕堂迂人≫[『七檎八縦』、『新聞集成大正編年史 大正 2 年度版』(明治大正昭和新聞研究会、1969 年)収録]

青年政治家に与ふる書『東京朝日新聞』2 月 12～16 日≪耕堂迂人≫[『七檎八縦』収録]

木堂先生に与ふる書『東京朝日新聞』2 月 17～21 日≪耕堂迂人≫[『七檎八縦』収録]

学堂先生に与ふる書『東京朝日新聞』2 月 22～27 日≪耕堂迂人≫[『七檎八縦』収録]

浪人組に与ふる書『東京朝日新聞』3 月 1～4 日≪耕堂迂人≫[『七檎八縦』収録]

原敬君に与ふる書『日本及日本人』602、3 月 15 日≪耕堂迂人≫[『七檎八縦』収録]

青年の奮起を促がす『世界之日本』4-4、4 月 1 日

権兵衛大臣を憐む『中央公論』28-4、4 月 1 日≪耕堂迂人≫

政友倶楽部に与ふる書『日本及日本人』603、4 月 1 日[『七檎八縦』収録]

憲政擁護根本論『日本及日本人』604、4 月 15 日[『七檎八縦』「結論」として収録]

自覚に次で來るもの『実業之世界』10-9、5 月 1 日

人心の激する所以『日本及日本人』605､606、5 月 1､15 日

遥に胡英君を懐ふ 日本の政治家同情家今奈何『日本及日本人』607、6 月 1 日

支那南北の形勢『日本及日本人』608、6 月 15 日

天下国家的青年『日本及日本人』609、7 月 1 日

意気地なき政党『日本及日本人』610、7 月 15 日

政界の前途『日本及日本人』611、8 月 1 日

亡命の客に対して犬死の説を告ぐ『中央公論』28-11、8 月 15 日≪中野耕堂≫

今昔の感『東京朝日新聞』9 月 2､5､6 日≪耕堂≫

東拓の暗雲『東京朝日新聞』9 月 16 日≪耕堂≫

満蒙は重要なれども田舎稼ぎ『日本及日本人』615、10 月 1 日

不知は罪悪の基『日本及日本人』616、10 月 15 日

山師よりは高利貸を敵とす『日本及日本人』617、10 月 31 日

満州遊歴雑録『東京朝日新聞』11 月 9～17､20～22､25～29 日、12 月 1～3､5､6､11～18､20､22､23､25 日≪中野耕堂≫[『我が観たる満鮮』収録]

大国大国民大人物『日本及日本人』618、11 月 15 日[『我が観たる満鮮』、今井清一編『大正思想集 I』＜近代日本思想大系 33＞(筑摩書房、1978 年)収録]

寺内伯動かんとす『東京朝日新聞』11 月 18､19 日≪耕堂≫

国家の発展と内訌『日本及日本人』619、12 月 1 日

## 1914(大正 3)年

憲政擁護一周年『日本及日本人』621、1 月 1 日

民党何ぞ振はざる『日本及日本人』622、1 月 15 日

今後の東拓会社『東京朝日新聞』1 月 25～29 日、2 月 2､3 日≪耕堂迂人≫[『我が観たる満鮮』収録]

一瞥せる朝鮮の地方『中央公論』29-2、2 月 1 日≪中野耕堂≫[『我が観たる満鮮』収録]

如何に大鉈を振ふ『日本及日本人』623、2 月 1 日[『我が観たる満鮮』収録]

対外硬、対内潔『日本及日本人』624、2 月 15 日

国民は果して覚醒せるか『日本及日本人』625、3 月 1 日

我が憂ふる所『日本及日本人』626、3 月 15 日

国民と陸海軍『日本及日本人』627、4 月 1 日

御大礼内閣とは何ぞ『日本及日本人』628、4 月 15 日

総督政治論『東京朝日新聞』4 月 16～25､27～30 日、5 月 1 日≪耕堂≫[『我が観たる満鮮』収録]

木堂屈する勿れ『日本及日本人』629、5 月 1 日

黒鳩公の満蒙論『日本及日本人』630、5 月 15 日

大隈伯に望む『日本及日本人』631、6 月 1 日

金銭よりも人材『日本及日本人』632、6 月 15 日

情実政治の不安『日本及日本人』633、7 月 1 日

新人材の活路『日本及日本人』634、7 月 15 日

政党大臣官僚大臣『日本及日本人』635、8 月 1 日

大戦乱と国民の覚悟『日本及日本人』638、9 月 15 日

日本帝国の使命『日本及日本人』639、9 月 20 日

対支外交刷新の秋『中央公論』29-11、10 月 1 日

挙国一致の成績『日本及日本人』640、10 月 1 日

此の無方針を奈何『日本及日本人』641、10 月 15 日

挙国一致論『日本及日本人』642、11 月 1 日

更に一歩を進めよ『日本及日本人』643、11 月 15 日

犬養毅氏を中心として大正三年の政党界を論ず[「大正三年論」]『新日本』4-14、12 月 1 日

虚偽の政策を排す『日本及日本人』644、12 月 1 日

帝国外交の危機『日本及日本人』645、12 月 15 日

## 1915(大正 4)年

殿様政治『朝鮮公論』3-1、1 月 1 日

総督政治の決潰期『日本及日本人』647、1 月 15 日

同化政策論『日本及日本人』651､653、3 月 15 日、4 月 15 日[『我が観たる満鮮』収録]

上海沖より『東京朝日新聞』3 月 29 日

支那大陸を右舷にて『日本及日本人』654、5 月 1 日[「亡国の山河」(『世界政策と極東政策』)収録]

安南沖に泛びつつ『日本及日本人』655、5 月 15 日[「亡国の山河」(『世界政策と極東政策』)収録]

新嘉坡より『日本及日本人』656、6 月 1 日[「亡国の山河」(『世界政策と極東政策』)収録]

感慨多き印度洋『日本及日本人』657、6 月 15 日[「亡国の山河」(『世界政策と極東政策』)収録]

対支外交と英国の不平『大阪朝日新聞』6 月 16 日[『新聞集成大正編年史 大正四年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1979 年)収録][『東京朝日新聞』6 月 17 日]

英国の内治外交『東京朝日新聞』6 月 28～30 日[『新聞集成大正編年史 大正四年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1979 年)収録]

亡国の山河『日本及日本人』658、7 月 1 日[「亡国の山河」(『世界政策と極東政策』)収録]

マルセイユまで『日本及日本人』659、7 月 15 日[「亡国の山河」(『世界政策と極東政策』)収録]

欧州初見参『日本及日本人』660、8 月 1 日[「亡国の山河」(『世界政策と極東政策』)収録]

工女の大示威行列『東京朝日新聞』8 月 30､31 日≪耕堂≫

遥かに日本男児に激す『日本及日本人』662、9 月 1 日

大国の頽廃を学ぶ勿れ『日本及日本人』663､664､666、9 月 15 日、10 月 1､15 日

露国の将来と日本の態度『日本及日本人』668～670､672､673、11 月 15 日、12 月 1､15 日、1916 年 1 月 15 日、2 月 1 日[「露国の将来と日本の自彊策」と改題、『世界政策と極東政策』収録]

## 1916(大正 5)年

英国牛津より『朝鮮公論』4-2、2 月 1 日

徴兵制度の決意『東京朝日新聞』2 月 7 日≪中野耕堂≫[『新聞集成大正編年史大正五年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1980 年)収録]

英国徴兵制度の半煮え『日本及日本人』675、3 月 1 日[『世界政策と極東政策』収録]

英国世界の人心を失す『日本及日本人』677、4 月 1 日

世界の怨府なる英国『新公論』31-5、5 月 1 日≪中野耕堂≫

絶島孤立経営論『日本及日本人』682、6 月 15 日[『世界政策と極東政策』収録]

口頭丈けの所謂日米親善運動に依頼せず 爾の額の汗より爾の運命を湧しめよ[21 日談(於サンフランシスコ)]日米[The Japanese American News]』6 月 24 日

対支政策と対列強策『日本及日本人』686、8 月 15 日[『世界政策と極東政策』収録]

英国の両面観[「英国研究」]『青年』4-9、9 月 1 日

敢て対支同憂の士に質す『日本及日本人』687、9 月 1 日[『世界政策と極東政策』収録]

此国民の惰気を如何『日本及日本人』688、9 月 15 日

独逸に於ける店員協会『実業之世界』13-20、10 月 1 日

野党何ぞ蹶起せざる『日本及日本人』690、10 月 1 日

悠長な英国人、気の早い日本人『日本評論』18、10 月 1 日≪中野耕堂≫

外患将に薄らんとす『日本及日本人』691、10 月 15 日

政界の大晦日『日本及日本人』692、11 月 1 日

[「寺内内閣を如何に観るか」]『日本評論』19、11 月 1 日

自主的日米親交論『日本及日本人』693～695、697、11 月 15 日、12 月 1、15 日、**1917 年** 1 月 15 日[「日米親善か日米開戦か」と改題、『世界政策と極東政策』収録]

*[未詳]『政治及社会』1-1、月日未詳

## 1917(大正 6)年

遊跡想痕漫録『日本及日本人』696、1 月 1 日

入社辞『東方時論』2-2、2 月 1 日

議会解散内外多事『東方時論』2-2、2 月 1 日

米独の国交断絶と欧亜の新形勢『東方時論』2-3、3 月 1 日

寺内内閣存続の意義如何『東方時論』2-4、4 月 1 日

ブルドッグと秋田犬 [談]『農業雑誌』1183、4 月 1 日≪中野耕堂≫

政界の現状と建設的輿論の必要『東方時論』2-6、6 月 1 日

露国の政変と列強勢力の消長『東方時論』2-6、6 月 1 日≪耕堂生≫

独逸の田鼠政策『東方時論』2-6～9、6 月 1 日、7 月 1 日、8 月 1 日、9 月 1 日[第 2 回、第 3 回掲載表題は「独逸のもぐらもち」、第 4 回掲載は「独逸の実業的侵略事業 独逸のもぐらもち(四)」]≪中野耕堂≫

不徹底の外交調査会『東方時論』2-7、7 月 1 日

東亜危し国危し『東方時論』2-8、8 月 1 日

帝国産業の基礎脅やかさる『東方時論』2-8、8 月 1 日≪耕堂≫

東方時論『東方時論』2-9、9 月 1 日【石井子の使命とルート氏の使命、外交調査会と政界、英の税戦準備とボーナー・ロウ氏の陳述、マンチェスタリズムより自給主義へ、連合諸国は米国の鉄材輸出禁止を黙認するか、米国極東に挑まんとす、現金勘定の米露外交＝東清鉄道譲与説、護謨園売却禁止、問題の地中海遣艦】

大戦乱は何時まで続く乎『東方時論』2-9、9 月 1 日

時事評論『東方時論』2-10、10 月 1 日【交戦列国の耐久力と打算力、予定のコースなき国は危し 不渡

手形の米国外交、石井遣米大使と米国の態度、南北調停の機来る、寺内首相の不干渉と林公使の干渉主義、日支国民協会の主張、露国の時局と列国の苦心】

日本帝国革新の秋『東方時論』2-10、10 月 1 日

時事評論『東方時論』2-11、11 月 1 日【恐慌来と外交政策の岐路、国際経済政策の序幕、対内驕＝対外怯、対米屈従と政府の対支大投資策、支離滅裂なる対支外交、リガ港の砲撃と露国の危機】

対外能力と責任政治『東方時論』2-11、11 月 1 日

時事評論『東方時論』2-12、12 月 1 日【段内閣瓦解して日本の威信落つ＝寺内伯林子如何の顔をかなす、馮国璋氏の実力と平和解決策 南方派の自重を望む、大に国論を喚起せよ、蒼海時代以上征韓論の昔に帰れよ】

*[未詳]『日本浪人』2-8、月日未詳

## 1918(大正 7)年

時事評論『東方時論』3-1、1 月 1 日【事前の警告＝戒軽挙、露国民衆心理の向ふ所 英米の失策と善後策の腐心、西伯利亜独立と日本の態度、英土単独講和説と米国の教書 奇怪なり！人道主義の変通自在、再び支那南北の調停を説かん、槽中の犬を追へよ】

彼等に国策なく憲政なし『東方時論』3-1、1 月 1 日

時事評論『東方時論』3-2、2 月 1 日【第四十議会の惰気微温的不徹底の質問戦、林公使の傲語崇白卑黄の陋態、外交調査会山県公に蹂躙される 南北調停方針より傍観主義へ、亜州の為に之を恥づ張継君感如何、露国は理想に於て世界を率ゐんとす、君見ずや西伯利亜の行路数千哩到所に殉難志士の枯骨累々たるを】

政府の施政方針と各党の宣言『東方時論』3-2、2 月 1 日

維新の先覚津田出翁を懐ふ『東方時論』3-2、2 月 1 日【耕堂】

現在の若手の働き者[「将来に注目すべき新進政治家」]『中央公論』33-3、3 月 1 日

時論『東方時論』3-3、3 月 1 日【内閣の威信失墜と其改造説 各政党の帰向如何、西園寺内閣の成立可能なりや 時勢は現実的奮闘家を要す、山県公の思惑と憲政会の夢 平田か、清浦か、閥族万々歳、対支政策再三動揺す 林公使山県公に訴ふ、対支政策の要点 極端なる南北論の愚】

公開せる講和会議『東方時論』3-3、3 月 1 日

『伯林より東京へ』『中央公論』33-4、4 月 1 日

似而非愛国者[「出兵問題賛否論」]『中外新論』2-4、4 月 1 日

時論『東方時論』3-4、4 月 1 日【国民は総て与らず本野外相の軽率、独逸世界政策と膨張の筋書 極東に散逸せんか近東に集注せんか、政治家の試金石と合格者不合格者 寺内、本野、三浦、原、犬養、民間有志、九博士、更に一人の合格者あり帰朝せる駐露内田大使、情実と行掛りを棄て胸中の誠意を喚起せよ 日支共同武装論と日本の責務】

片眼隻耳の外交を排す『東方時論』3-4、4 月 1 日

日支政客に誨ふ『東方時論』3-5、5 月 1 日

時論『東方時論』3-6、6 月 1 日【廟堂を猫堂化せんとするか曰く西園寺、曰く原、曰く私、曰く党、英仏も内閣の更迭に躊躇せず＝意義なく興味なき内閣更迭説、四百余州の南北東西を達観せよ彼等は空気と光線との供給足らず、段氏自ら南方討伐の難きを知る誠意は売物とならず、馮氏は段氏と見解を異に

す 馮総統曰く、段総理に問へ】

後藤新外相と外務の積弊『東方時論』3-6、6 月 1 日

支那の内争と日本『大陸』6-7、7 月 1 日

腑甲斐なし亜細亜の盟主『東方時論』3-7、7 月 1 日

所謂亜細亜的術策を排す『中央公論』33-8、7 月 15 日

浅慮外交屈辱出兵『東方時論』3-8、8 月 1 日

大塩中斉を憶ふ『東方時論』3-9、9 月 1 日

外に自主的協調、内には国民と協調『中央公論』33-11、10 月 1 日

時論『東方時論』3-10、10 月 1 日【国民は総べて知らず県老人、松老人、隈老人、園老人、嗚呼此頽廃的気分賢人政治の弊是に至る、西園寺は優柔、原は老獪「新政厚徳」の旗幟なるか、原氏よ国際的に横着なれ】≪耕堂≫

国難四辺より迫る『東方時論』3-10、10 月 1 日

時論『東方時論』3-11、11 月 1 日【自主的に講和を見よ、戦争の試練と民主的潮流、政党内閣より国民内閣へ、選挙制度は国民的なれ、軍備の編成も亦国民的なれ珍らしや安達総務、対支政策の動揺と田中新陸相、速やかに南北を調停せよ】≪耕堂≫

戦時外交より講和外交へ『東方時論』3-11、11 月 1 日

講和を現実に観よ『東方時論』3-12、12 月 1 日

## 1919(大正 8)年

渡欧の門出に『東方時論』4-1、1 月 1 日

裸踊りの外交戦『東方時論』4-2、2 月 1 日

奇怪なる米人の心理と新思潮難『東方時論』4-3、3 月 1 日

世界改造の巷より『日米[The Japanese American News]』3 月 23～31 日、4 月 1～13 日

世界改造の巷より『日布時事』4 月 7～12、16～19、21～26、28～30 日、5 月 1 日

世界改造の巷より『東方時論』4-5、5 月 1 日[東方時論社、4 月刊。『現実を直視して』収録]

旭日旗影薄し『東方時論』4-5、5 月 1 日[『現実を直視して』収録]

講和会議を目撃して『大阪朝日新聞』5 月 4～15、17～27、29～31 日、6 月 2～6、8～14 日[『講和会議を目撃して』収録]

講和会議の真相[5 月 4 日大阪毎日新聞社主催講演大要於大阪市中之島中央公会堂]『大阪毎日新聞』5 月 5 日

講和会議の表裏[5 月 4 日大阪毎日新聞社主催講演速記於大阪市中之島中央公会堂]『大阪毎日新聞』5 月 6～10、12、13、15～20、22 日

講和会議と我特使[談]『信州』1-5、6 月 1 日

我使臣の愚劣掩ふに言なし[在文責記者]『大観』2-6、6 月 1 日

何ぞ困難に鑑みざる『東方時論』4-6、6 月 1 日

山東問題と日支両国の教訓『実業之日本』22-13、6 月 15 日

講和の使節の内幕を国民に報ず『寸鉄』1-7、7 月 1 日

屋根裏の一青年－ヂヨルヂヤの志士ガムベシチー『青年雄弁』4-7、7 月 1 日

国民の解放は唯一の活路『中央公論』34-7、7 月 1 日[『講和会議を目撃して』収録]

新局面は独露より開く『東方時論』4-7、7 月 1 日

国民生活と国際生活『東方時論』4-7、7 月 1 日[『講和会議を目撃して』収録]

国民外交の旗揚(全国莫大小業者の対英示威運動)『東方時論』4-7、7 月 1 日

講和会議の真相[「調査資料」]『憲政』2-5、7 月 10 日

誠意⁉勇気⁉[青年に望む第一要件]『帝国青年』4-8、8 月 1 日

如何か世界の窮困を救ふ『東方時論』4-8、8 月 1 日

政治改革より純理改革へ『東方時論』4-8、8 月 1 日

青島問題と労働問題『東方時論』4-8、8 月 1 日

政党幹部の無能揃い『潮』2-9、9 月 1 日

講和惨敗の跡[「講和使節を迎ふ 新帰朝永井・長島・中野氏の講和会議見聞記」]『寸鉄』1-9、9 月 1 日

改造同盟論『東方時論』4-9、9 月 1 日

誰か大勢を指導する『東方時論』4-9、9 月 1 日

西園寺侯を迎ふ『東方時論』4-9、9 月 1 日

講和会議後の時局と国民の覚悟『信州』1-10､11、10 月 1 日、11 月 1 日

改造へ、改造へ[「新時代の青年に与ふる書」]『中学世界』22-13、10 月 1 日

人道的対露政策を提唱す『東方時論』4-10、10 月 1 日

挑戦的米国に誨へよ『東方時論』4-10、10 月 1 日

国民､喜劇政治に厭く『東方時論』4-10、10 月 1 日

昔の儘の店は張るまい[「後藤尾崎両氏が帰つたなら」]『労働世界』4-10、10 月 1 日

偶像と幻影と現実『東方時論』4-11、11 月 1 日[『現実を直視して』収録]

現代唯物外交観『東方時論』4-12、12 月 1 日

労働運動の試煉『東方時論』4-12、12 月 1 日

## 1920(大正 9)年

政局の前途は夫れ洪水か『国民新聞』1 月 1 日

新現象と新人物『東方時論』5-1、1 月 1 日[『現実を直視して』収録]

失敗せる対支政策－青島居留地問題と外務省－『人間』2-1、1 月 1 日

国際政策としての西伯利撤兵論『東方時論』5-2、2 月 1 日

四十二議会の各政党『東方時論』5-2、2 月 1 日

失敗せる対支政策－青島居留地問題と外務省『人間』2-1、2 月 1 日

全国政戦の巷(憲政会に必勝の策を献ず)[「月曜論壇」]『国民新聞』3 月 1 日

揺ぎ出せる政界の各勢力諸人物『東方時論』5-3、3 月 1 日

英米対日外交の転機『東方時論』5-3、3 月 1 日

議会解散政界総動員『東方時論』5-3、3 月 1 日

総選挙に臨む国民の責任『東方時論』5-4、4 月 1 日

独逸反革命の経過『東方時論』5-4、4 月 1 日

総選挙戦正に闌なり『東方時論』5-5、5 月 1 日

総選挙前後の政界『東方時論』5-6、6 月 1 日

西伯利政策失敗の責任と根本的対策『東方時論』5-7、7 月 1 日

議場で処女演説を試みて[「初めて議政壇上に立ちて」]『中央公論』35-9、8 月 1 日

排日連盟成立の徴『東方時論』5-8、8 月 1 日

帝国外交の危機 錆び刀にて剣舞するを止めよ[「日曜論壇」]『国民新聞』8 月 15 日

波蘭の浮沈に鑑みよ『東方時論』5-9、9 月 1 日

新政治運動の新機軸『東方時論』5-9、9 月 1 日

錆刀を振り廻す日本」『新世界』9 月 12､13 日

英雄の環境を偲びて『東方時論』5-10、10 月 1 日[『現実を直視して』収録]

亜米利加建国の精神に訴へよ[「日曜論壇」]『国民新聞』10 月 3 日[中川竹三『加州問題の真相』(民友社、1920 年)、『新聞集成大正編年史 大正九年度版 下』(明治大正昭和新聞研究会、1983 年)収録]

建国の精神に訴へよ 米国民は斯の如き事を敢てするか 実に是不法極まる」『新世界』10 月 29～31 日、11 月 1 日

汎米主義の六大展開と対日脅威『東方時論』5-11、11 月 1 日[『現実を直視して』収録]

満鮮の鏡に映して『国民新聞』12 月 1～29 日、**1920 年** 1 月 3～20､22､24､25 日[『満鮮の鏡に映して』、(十)を『新聞集成大正編年史 大正九年度版 下』(明治大正昭和新聞研究会、1983 年)収録]

職業政治家の遊戯を排す『東方時論』5-12、12 月 1 日

*遊鮮漫評『信州』2-？、発行月日未詳

## 1921(大正 10)年

新興民族を創造するの使命『東方時論』6-1、1 月 1 日

時論『東方時論』6-1、1 月 1 日【新春露西亜の曙光、米露支三国の接近と日本、小幡公使の露支通商観、東京市の醜態は国家の縮図、対米政策益々逡巡、加藤高明氏の対支論】

米国建国の精神『紐育新報』686、1 月 1 日

米国建国の精神を会得せよ　日本国民の一大覚悟『日布時事』1 月 1 日

政友会、憲政会及び国民党『東方時論』6-2、2 月 1 日

時論『東方時論』6-2、2 月 1 日【政友会の爛熟、加藤総裁の挑戦、国民党の産業立国論、議場整理の妙案、休会明けの帝国議会】

任侠と卑劣[演説]『雄弁』12-2、2 月 1 日

海軍協定論と尾崎案『東方時論』6-3、3 月 1 日

時論『東方時論』6-3、3 月 1 日【所謂重大事件と元老、無勢力なる貴衆両院、憲政会の窮境転廻策、朝鮮の人心益々動揺、朝鮮統治と衆議院】

国民唯一の活路[2 月 12 日拓殖大学主催植民講演会講演要領於神田青年会館、文責在記者]『東洋時報』270、3 月 20 日

原内閣は精神的に斃れたる醜骸なり[「言論擁護と現閣糾弾」]『中外新論』5-4、4 月 1 日

既成政党の破産『東方時論』6-4、4 月 1 日

時論『東方時論』6-4、4 月 1 日【政友会の血迷ひ、安価なる英国紳士道、米国と極東脅威の部署、列国の対露通商競争、英国苦心と日本の怠慢】

政変如何にして来るか『東方時論』6-5、5 月 1 日

尾崎氏の遊説『東方時論』6-5、5 月 1 日

米国の大野心と満州租借権『東方時論』6-5、5 月 1 日

ブルジョア当局の怠慢と労働問題『東方時論』6-5、5 月 1 日

有色人種絶滅策[文責在記者]『日華公論』8-5、5 月 1 日

*青年日本国の建設『信州』3-6、6 月 1 日＜県立長野図書館所蔵＞

国際的紛糾を解くの秘鑰『東方時論』6-6、6 月 1 日

時論『東方時論』6-6、6 月 1 日【政界革新の基調、国民党の態度と知識階級、東支鉄道の処分問題、山県公の封事問題と原敬氏、青島還付論と日本】

朝鮮問題と警察の民衆化『日華公論』8-6、6 月 1 日

人類再生の秋に際して[講演大要]『廓清』11-5・6、6 月 10 日

排日問題の考察と積極的対応策『現代』2-7、7 月 1 日

武装的文弱国の狂態『東方時論』6-7、7 月 1 日

如何にか政界を粛正せん『東方時論』6-7、7 月 1 日

日英同盟と無条件撤兵『東方時論』6-7、7 月 1 日

アタールとエロシエンコ『東方時論』6-7、7 月 1 日

卑劣思想の打破と日支親善[文責在記者]『日華公論』8-7、7 月 1 日

根柢を把握せよ『国民新聞』7 月 7～12、14、16、18、19、22、23 日[7、8 日付の表題は「根柢に徹せよ」]

已むを得ずんば原敬か『国民新聞』7 月 20 日

新国家建設の第一歩 先づ国民精神の建替建直し『自由評論』9-8、8 月 1 日

太平洋会議を活用せよ『東方時論』6-8、8 月 1 日

同盟廃棄より独立孤往へ『東方時論』6-8、8 月 1 日

已むを得ずんば原敬か『東方時論』6-8、8 月 1 日

日支親善と満州に寄生する党類[文責在記者]『日華公論』8-8、8 月 1 日

太平洋会議愈々進展す『東方時論』6-9、9 月 1 日

国際政局の根源に徹せよ『東方時論』6-9、9 月 1 日

四国干渉何物ぞ[談]『武侠世界』10-13、9 月 1 日

難局を現実に見よ『国民新聞』9 月 17～27､29､30 日、10 月 1～4､6～9､12､15～17 日＜25 回連載＞

屈従は危機を招く『東方時論』6-10、10 月 1 日

時論『東方時論』6-10、10 月 1 日【俎上に眠る日本、日本の存立問題、太平洋会議の使節、加藤総裁の時局論、躍起組と敗北主義者、愚劣なる山東交渉と大連会議】

極東平和の基礎＝日露支鮮四民族の融洽親善を図れ[文責在記者]『日華公論』8-10、10 月 1 日

*世界政局の渦と日本『世界公論』10 月

太平洋会議は果して国難か『新家庭』6-11、11 月 1 日

徳川使節の態度『東方時論』6-11、11 月 1 日

原内閣得意の絶頂『東方時論』6-11、11 月 1 日

感激・精進・躍動『雄弁』12-11、11 月 1 日

現代の青年と政治運動『寸鉄』3-12、12 月 1 日

外交果して至難『東方時論』6-12、12 月 1 日

高橋内閣の環境『東方時論』6-12、12 月 1 日

華盛頓会議と我当局の失体『国民新聞』12 月 21～23 日

## 1922(大正 11)年

ベルサイユ会議管見『中央史壇』4-1、1 月 1 日

国際日本の新活路『東方時論』7-1、1 月 1 日

華府会談と極東問題[文責在記者]『日華公論』9-1、1 月 1 日

豪壮なりし大隈侯『東方時論』7-2、2 月 1 日

政界漸次に展開す『東方時論』7-3、3 月 1 日

議会の悪評は何の徴『東方時論』7-4、4 月 1 日

最高の人道と最良の政策『労働立国』1-3、4 月 1 日

*政界の潮流と魚族の盲動『世界公論』4 月

我政界の新機運『信州』4-5、5 月 1 日

独露提携と日本『東方時論』7-5、5 月 1 日

政界革新の魁『東方時論』7-5、5 月 1 日

政界腐敗の解説と救済の原理『東方時論』7-6、6 月 1 日

加藤内閣に要望『東方時論』7-7、7 月 1 日

批評圏外の加藤内閣[「新内閣の批判」]『東方時論』7-7、7 月 1 日

西伯利撤兵の後図『東方時論』7-8、8 月 1 日[『中野正剛対露支論策集』収録]

対露非干渉運動『東方時論』7-8、8 月 1 日

独露破産同盟と日本『東方時論』7-8、8 月 1 日[『中野正剛対露支論策集』収録]

少壮記者連の会を[「春秋会に対する所感と希望」]『新聞及新聞記者』3-6、8 月 15 日[復刻版『新聞及新聞記者』第 5 巻(金沢文圃閣、2022 年)収録]

又新社と東方時論[巻頭言]『東方時論』7-9、9 月 1 日

国際債権問題の両端を叩きて『東方時論』7-9、9 月 1 日[『中野正剛対露支論策集』収録]

生活安定の民衆運動を起せ『東方時論』7-9、9 月 1 日

対露交渉の要訣『東方時論』7-9、9 月 1 日

生活に立脚して政治を慮れ[「時論」]『婦人公論』7-9、9 月 1 日

婦人参政『女性』2-4、10 月 1 日

人間性と利己[巻頭言]『東方時論』7-10、10 月 1 日

国民外交の屏息を如何『東方時論』7-10、10 月 1 日

対露交渉の基調『東方時論』7-10、10 月 1 日

幼けなき思ひ出[「現代新人物 自叙伝の一齣」]『雄弁』13-10、10 月 1 日

二重外交より国民外交へ[巻頭言]『東方時論』7-11、11 月 1 日

極東に立ちて近東を見よ『東方時論』7-11、11 月 1 日

物価問題の両翼『東方時論』7-11、11 月 1 日

政党政治の改造『寸鉄』4-12、12 月 1 日

剛健なる抵抗力を要す[巻頭言]『東方時論』7-12、12 月 1 日

## 1923(大正 12)年

新春の政界に面して『東方時論』8-1、1 月 1 日

今期議会と物価問題『神戸又新日報』1 月 7 日

[「『華族の邸宅地開放』に対する批判」]『解放』5-2、2 月 1 日

気概と温情と打算『東方時論』8-2、2 月 1 日

緊縮より暢展へ『東方時論』8-2、2 月 1 日

孤立外交の光明『東方時論』8-2、2 月 1 日

枢密院と陰謀政治『東方時論』8-3、3 月 1 日

後藤子とヨツフエ氏『東方時論』8-3、3 月 1 日[『中野正剛対露支論策集』収録]

両個の羅馬法王『東方時論』8-3、3 月 1 日

地租国税の撤廃と地方長官の民選論　革新倶楽部本議会の提唱[談]『新世界』3 月 1～3 日

世界政策としての露西亜承認『東方時論』8-4、4 月 1 日

露国を承認せよ『秋田魁新報』4 月 2 日

政変説と政界『東方時論』8-5、5 月 1 日

労農国承認の効果[「日露通商に面して」]『国論』9-10、5 月 15 日

露西亜を即刻無条件にて承認せよ[「労農ロシヤ承認問題」]『改造』5-6、6 月 1 日

日露国交の精神的要素『東方時論』8-6、6 月 1 日[『中野正剛対露支論策集』収録]

日露交渉の暗礁『東方時論』8-7、7 月 1 日[『中野正剛対露支論策集』収録]

醜悪なる日露交渉『東方時論』8-8、8 月 1 日[『中野正剛対露支論策集』収録]

現状打破は徹底的に『東方時論』8-8、8 月 1 日

対支問題の要訣『東方時論』8-8、8 月 1 日

殺されたる主義者『東方時論』8-8、8 月 1 日

[「研究室臨検事件に就ての感想」]『日本教育』2-8、8 月 1 日

復興の経綸『我観』1、10 月 15 日

国民の期待する所 権兵衛伯と後藤子犬養氏『我観』1、10 月 15 日≪中野耕堂≫

新興勢力と普通選挙『我観』2、11 月 15 日

普選と政治的勢力のプロダクション[「普選の実施と既成政党の将来」]『改造』5-12、12 月 1 日

## 1924(大正 13)年

国際経済政策としての対露問題『我観』3、1 月 1 日

普選と政治的 PRODUCTION『工場世界』5-1、1 月 5 日

特権内閣の本質的検討『我観』4、2 月 1 日

*英語と日本国民『カレント・オヴ・ザ・ワールド』1-3、2 月 5 日

インテリゲンチャへの希望[「学芸 政局と知識階級」]『東京朝日新聞』2 月 15､16 日[(上)のみ『新聞集成大正編年史 大正十三年度版 上ノ上』(明治大正昭和新聞研究会、1986 年)収録]

今や青年の責務重大なり『青年大学』1、3 月 1 日

日露両国民に愬ふ『我観』6、4 月 1 日

総選挙に直面して『我観』7、5 月 1 日

[「わが愛読の秋に関する古今東西の文章詩歌について」]『随筆』2-9、10 月 1 日

来る可き通常議会を予想して在野党の無気力を歎ず[「来る可き議会の予想」]『世紀』1-1、10 月 1 日

支那時局と対支態度[「論壇」]『憲政』7-10、10 月 10 日

*感激、精進、躍動『偉大』67、10 月、

不干渉主義の積極的発動『我観』[改巻]6、12 月 1 日≪二十六峰外史≫[『中野正剛対露支論策集』収録]

## 1925(大正 14)年

政界座談 政党政治の将来『平凡』2-1、1 月 1 日[10 月 4 日座談会(於富士見町富士見軒):田子一民、星島二郎、長島隆二、島中雄三、西村弘明、野村秀雄、下中弥三郎]

孫文氏の去来と亜細亜運動『我観』7、1 月 1 日≪二十六峰外史≫[『国民に訴ふ』、『中野正剛対露支論策集』収録]

流動的弾力を失つた[「横田没後と三派提携の将来」]『改造』7-3、3 月 1 日

日露親交の真価値『我観』9、3 月 1 日

来らんとする露支両国大使『我観』9、3 月 1 日≪耕堂≫

普選断行の主張『我観』10、4 月 1 日

普通選挙の論陣『憲政公論』5-4、4 月 1 日

日露条約の国際的価値[「日露の復交と国民」]『新天地』5-5、5 月 1 日

日露問題を中心として[「思潮」]『日本警察新聞』639～642、5 月 1、10、20 日、6 月 1 日

進藤喜平太翁『我観』13、7 月 1 日≪耕堂学人≫

対支同情の徹底を怕るゝ勿れ『我観』14、8 月 1 日[『中野正剛対露支論策集』収録]

日支露の国際的地位[10 月 5 日演説抄於満鉄社員倶楽部]『新天地』5-12、12 月 1 日

## 1926(大正 15・昭和元)年

日支融合の現実化『我観』27、1 月 1 日[『中野正剛対露支論策集』収録]

新春を迎へて極東の黎明を懇ふ『立憲青年』6-1、1 月 1 日

政党首領としての若槻氏[「若槻内閣と政界の前途」]『改造』8-3、3 月 1 日

若槻内閣を繞りて『我観』29、3 月 1 日≪二十六峰外史≫

最近の露西亜を視察して『現代』7-3、3 月 1 日

対支外交と政友会『立憲青年』6-2、3 月 1 日

政友会の四幹部調査の件－(大正十五年三月四日衆議院速記録)－[「第五十一議会の三大査問会」]『新使命』3-4、4 月 1 日

## 1927(昭和 2)年

軍縮会議の成立を望む[「論壇」]『憲政公論』7-3、3 月 1 日

枢密院弾劾の政治的意義『民政』1-1、6 月 1 日

不当極まる枢府の行動(第五十二議会に於ける枢府弾劾案の説明演説)『立憲青年』7-6、6 月 1 日

揚子江は魔の淵[「支那干渉か不干渉か」]『我観』45、7 月 1 日

既成政党は何を存在理由とするか 政綱中心に階級超越の糾合『エコノミスト』5-19、10 月 1 日

国際主義と人種平等[「誌上青年処女大会」]『現代』8-10、10 月 1 日

## 1928(昭和 3)年

危険なる対支政策『布哇報知』1 月 1 日

大地に刻せよ『経世の文字』『九州日報』1 月 17 日

[善行少女への褒賞]『九州日報』1 月 21 日

南洲論『九州日報』1 月 23～31 日、2 月 1～5 日

大地に刻せよ経世の文字ー(清水芳太郎君を九州に送る)ー『我観』52、2 月 1 日

立憲民政党の国家整調主義[「八大政党の指導原理」]『経済往来』3-2、2 月 1 日

我党の高調する国家整調主義[「論壇」]『民政』2-2、2 月 1 日

[「特別広告」]『九州日報』2 月 13 日

普選に大勝したる我党の真面目[「論壇」]『民政』2-3、3 月 1 日

単に臭い点では政友も同じ事 殊にムツソリーニの嗅のする田中、鈴木、小川[談]『九州日報』4 月 14 日

円タク型のムツソリーニと幼稚な労農党[「『共産党検挙と労農党解散』事件」]『中央公論』43-5、5 月 1 日

内閣弾劾の前提としてー民政党の賛成理由『立憲青年』8-5、5 月 15 日

さつま汁にせ田舎料理[「僕の妻が拵へてくれる一番美味しい料理」]『婦人倶楽部』9-6、6 月 1 日

支那は混沌より混沌へ[「動乱の支那は何処へ行く」]『雄弁』19-7、7 月 1 日

脱党の理由頗る薄弱 天下公人の首肯すべき理由なき行動は陰謀に過ぎぬ[談話記事]『九州日報[夕刊]』8 月 2 日

対支政策の更新[7 月 31 日演説速記於九州劇場]『九州日報』8 月 12～31 日、9 月 1～10 日[『国民に訴ふ』収録]

白虎隊の墓を弔ひて『九州日報』9 月 11 日[『国民に訴ふ』、『魂を吐く』収録]

田中総裁の魂胆[「政友民政党首後継者問題」]『改造』10-10、10 月 1 日

[「芸妓問題と輿論」]『廓清』18-10、10 月 10 日

政機将に動かんとす『九州日報』10 月 23～31 日

政機将に動かんとす[「東方時論」]『我観』61、11 月 1 日

大典の京洛より 錦旗を草莽の間に建てよ『九州日報』11 月 15 日

大典後の政界展望『九州日報』11 月 22～27 日

大典後の政界展望 政府与党の議員誘拐策[「東方時論」]『我観』62、12 月 1 日

崩壊せる田中外交[「今議会では何が中心か」]『九州日報』12 月 15～20 日

## 1929(昭和 4)年

対支政策の惨敗[「東方時論」]『我観』63、1 月 1 日

我党は斯く進まん『九州日報』1 月 1 日

日支関係の悪化と満鉄回収問題[「国民政府の所謂満蒙及満鉄回収論」]『改造』11-2、2 月 1 日

田中強硬外交の死命を制する難題[談]『九州日報』2 月 10 日

田中外交の責任解除『九州日報』2 月 28 日～[『九州日報』3 月は未見]

田中外交の責任解除[「東方時論」]『我観』64、3 月 1 日[『国民に訴ふ』収録]

暴露の正体『中央公論』44-3、3 月 1 日

日支漫言『日支』2-3、3 月 1 日

[「小選挙区制批判」]『我観』65、4 月 1 日

国民が承認せぬ田中内閣[「議会後の政局はどうなる」]『改造』11-4、4 月 1 日

田中外交の全部的失敗[「政局は何処へ？」]『改造』11-5、5 月 1 日

所謂済南事件の解決[「外交時言」]『九州日報』5 月 29 日

吉会線問題とブラフ外交の破産[「外交時言」]『九州日報』5 月 30 日

日本の退嬰と米国の弗的支配[「外交時言」]『九州日報』5 月 31 日

所謂済南事件の解決[「東方時論」]『我観』67、6 月 1 日

吉会線問題とブラフ外交の破産[「東方時論」]『我観』67、6 月 1 日

日本の退嬰と米国の弗的支配[「東方時論」]『我観』67、6 月 1 日

醜劣なる資本家の内争と労農露西亜[「東方時論」]『我観』67、6 月 1 日

南京政府の試金石[「東方時論」]『我観』67、6 月 1 日

醜劣なる資本家の内争と労農露西亜[「外交時言」]『九州日報』6 月 1､2 日

南京政府の試金石[「外交時言」]『九州日報』6 月 3 日

不戦条約問題と枢密院の責任問題[「東方時論」]『我観』68、7 月 1 日

杉森孝次郎を評す[「第一線の人・想と行動相互批判」]『読売新聞』7 月 11 日

餓死して見ろ!! 国宝だ!!『キング』5-8、8 月 1 日

緊縮より努力へ[8 月 15 日全関西婦人連合会主催消費経済講演会於大阪朝日会館]『全関西婦人連合会』6-9、9 月 10 日

カフエーよりも坊さんを取締れ[談]『大阪毎日新聞[夕刊]』12 月 6 日[『新聞集成昭和編年史 昭和四年度版 IV』(新聞資料出版、1990 年)収録]

## 1930(昭和 5)年

解散の直前に『九州日報』1 月 24～30 日

この勢で行けば二百六十名を突破 福岡県一区こそ理想選挙の典型[談]『九州日報』2 月 23 日

男子の本懐『キング』6-6、6 月 1 日[『玄南文集』収録]

二人の異なつた立場[「四ツに組んだ財部と加藤」]『サンデー毎日』9-28、6 月 15 日

明るい気持ちのよい人をほめる座談会『キング』6-7、7 月 1 日[座談会：梶原仲治、小村欣一、宍戸左行、鈴木文四郎、鶴見祐輔、牧野良三、守屋東、細木原青起、山本忠興、吉岡弥生、和田英作、小野賢一郎]

国家統制の経済的進出『九州日報』7 月 16～18､20～24 日

国家統制の経済的進出[「日本更生への示唆」]『我観』81、8 月 1 日

国家統制の経済的進出[「論壇」]『民政』4-8、8 月 1 日

打開の一途[9 月 18 日国民新聞社主催不景気打開演説会速記]『国民新聞』10 月 15～17､19､21～24 日[国民新聞編輯局編『不景気打開の途』(啓成社、1930 年)収録]

闘犬を語る『サンデー毎日』9-52、11 月 16 日

国運進展の大方策『雄弁』21-12、12 月 1 日

経済産業の国家的統制[1930 年 7 月講演速記於東京帝国大学経済学部保険演習学友会]『保険評論』23-9、24-1、12 月 30 日、**1931 年** 1 月 31 日

## 1931(昭和 6)年

対支関係の再組織[「論叢」]『外交時報』638、1 月 1 日[『沈滞日本の更正』収録]

政治家の決心『九州日報』1 月 3～5 日

大戦後の世界財界の推移と我国の財政政策 付､電話民営の論拠とその骨子[1930 年 11 月 11 日講演於日本貿易協会第 55 回午餐会]『貿易』31-1、1 月 15 日

党本部に帰るまで『我観』87、2 月 1 日

議会を顧みて『東京朝日新聞』4 月 1～3､6 日[「五十九議会を顧みて」『大阪朝日新聞』4 月 1､2､6､7 日]

第五十九議会を顧て『民政』5-5、5 月 1 日

時代に順応する若槻首相の弾力性[談]『九州日報[夕刊]』5 月 15 日

現下時局に対する私の経綸[5 月 27 日於朝日講堂]『講演集』254、5 月 30 日

不況打開の概念と適用『国民新聞[夕刊]』6 月 19～21､23､25～28､30 日、7 月 1～4､7､8 日

対支関係の再組織『外交時報』638、7 月 1 日

対支関係の再組織と其の指導原理『九州日報[夕刊]』7 月 1～5､7､8､10～12 日

シッカリシロ・チチ『九州日報』8 月 21～30 日

シッカリシロ・チチ『中央公論』46-9、9 月 1 日[『魂を吐く』､『子を喪へる親の心』(岩波書店、1937 年)収録]

青年日本の曙光『キング』7-10、10 月 1 日

国民外交を以てせよ！[「満蒙をどうする」]『経済往来』6-10、10 月 1 日

意志の強さ、情味の香り[「男らしい男、女らしい女」]『婦人倶楽部』12-10、10 月 1 日

満蒙と我が特殊権益座談会『文芸春秋』9-10、10 月 1 日[9 月 4 日座談会(於星ヶ丘茶寮) : 建川美次、佐藤安之助、高木陸郎、森格、大西斉、神川彦松、佐々木茂索][『「文芸春秋」にみる昭和史』第 1 巻(文芸春秋、1987 年)収録]

支那に責任者なし 須らく実質的に解決せよ『エコノミスト』9-20、10 月 15 日

現前の問題を先づ片づけよ[「満州事変 我等はかく主張する」]『大阪朝日新聞』10 月 28 日

英米の拘束から離脱すべし[「時局を検討す」]『東京朝日新聞[夕刊]』10 月 29 日

満州問題を中心として『ダイヤモンド』19-35、11 月 11 日

謡曲外交・幣原の失敗とジヤズ外交・佛蘭西の成功ーいつまでも、英国のだしに、使はれる勿れー『サラリーマン』4-10、1931-11 月 15 日[発禁処分により『サラリーマン』4-10 改訂版、12 月 1 日にも掲載]

満州問題を中心として『九州日報』11 月 19～28 日

満州問題を中心として[11 月 2 日於横浜高等工業学校]『講演』165、11 月 30 日

満蒙侵略者は支那 日本は譲歩するな[「満州をどうする？」]『東京朝日新聞』12 月 15 日

自由国を建設し日本は後援保護せよ[「満州をどうする？」]『東京朝日新聞』12 月 16 日

満州を我国労働者の安住地たらしめよ[「満州をどうする？」]『東京朝日新聞』12 月 17 日

世界経済から問題を視よ[「満州をどうする？」]『大阪朝日新聞』12 月 18 日

新自由国を擁護せよ[「満州をどうする？」]『大阪朝日新聞』12 月 19 日

労働と資本を併進させよ[「満州をどうする？」]『大阪朝日新聞』12 月 20 日

## 1932(昭和 7)年

英雄偉人を語る座談会『キング』8-1、1 月 1 日[座談会：中村孝也、中島徳蔵、澤田謙、笹川臨風、菊池寛]

国民は枯死する[「二大国難に直面して挙国一致植民放送大会」]『植民』11-1、1 月 1 日

政変に直面して『中央公論』47-1、1 月 1 日

一時的景気の錯覚を指摘し全国民に告ぐ 政治家の発奮すべき絶好期『新潟新聞』1 月 1 日

字典外交から脱却せよ[「満蒙問題再吟味」]『北海タイムス』1 月 1 日

郷党の同志と充分に語りたい[談]『九州日報』1 月 4 日

内外風雲急 今度の政変は世界に相関連する[談]『九州日報』1 月 4 日

大国民の襟度『国民新聞』1 月 6､7 日

政局の真相と吾徒の動向『九州日報』1 月 19～31 日

政局の真相と吾徒の動向[1 月 15 日講演於日本青年館]『講演』170、1 月 20 日

政変の真相と時局[1 月 28 日(於麻布南山小学校)]『講演集』277、1 月 30 日

*月旦倶楽部第五回例會 日本主義国策座談会『人の噂』3-1、1 月[座談会：高須梅溪、山田丑太郎、佐々井一晁、滿川龜太郎、村松梢風、ラス･ビハリ･ポース、五百木良三、下中彌三郎、尾崎行、朴春琴]

ソシアル・ナショナリズムの色彩にて[「政治時評」]『改造』14-2、2 月 1 日

協力内閣説をめぐる政変の内幕を語る 民政党の御家騒動の真相は斯くの如し『サラリーマン』5-2、2 月 1 日

脱退哲学 その総論[談]『東京日日新聞』2 月 1 日

満蒙建立の精神『外交時報』653、2 月 15 日

フワスシズムの指導目標[談、「フワツシヨと日本」]『国本』12-3、3 月 1 日

フアシズム批判座談会『東洋経済新報』1492、3 月 26 日[3 月 15 日座談会(於経済倶楽部):室伏高信、松岡駒吉、長谷川如是閑、中島久万吉、下中弥三郎、北昤吉、赤松克麿、杉森孝次郎、三浦銕太郎、石橋湛山][『経済倶楽部講演録』799、2015 年 9 月再録]

我が意気と新鋭機 一世を警醒せん 九州日報の新使命 自祝の言『九州日報』[九州日報社新築記念号]5 月 15 日

テロを防ぐ途 たゞ国民運動[談]『九州日報』5 月 16 日

哀れ時勢急激の犠牲、犬養首相[談]『九州日報[夕刊]』5 月 17 日

中野正剛氏時局座談会[5 月 17 日時局座談会挨拶於九州日報社]『九州日報』5 月 17～27 日

日本の国策を論ずー満蒙対策の基調ー『経済往来』7-6、6 月 1 日

農村応急対策座談会『大阪毎日新聞』6 月 13～22、24、25、26、28～30 日、7 月 2～7 日[6 月 11 日座談会(於東京会館):東武、有馬頼寧、内ヶ崎作三郎、小川郷太郎、岡田温、大口喜六、加藤完治、加藤知正、上山満之進、後藤文雄、杉山元治郎、千石興太郎、添田敬一郎、東郷実、那須皓、深井英五、福沢泰江、松村謙三、三土忠造、森捨、矢作栄蔵、矢野恒太、(本社側)岡副社長、岡崎総務、西村副主幹、杉山経済部長、松岡編集顧問、阿部論説委員]

*[未詳]『昭和評論』1-1、6 月

日本の動向[5 月 7 日於青山学院講堂]『講演』187、7 月 10 日

丁正使、林副使一行に捧ぐ[「歓迎満州国使節一行」]『九州日報』7 月 15 日

時代革新の暁鐘『現代』13-8、8 月 1 日

立憲政治の危機を救ふものは何か[「政党政治不安とその対策」]『実業之世界』29-8、8 月 1 日

政界新人と少壮評論家 新日本建設座談会『文芸春秋』10-8、8 月 1 日[座談会:風見章、野中徹也、杉浦武雄、大森義太郎、佐々弘雄、香月保、林広吉、菅忠雄]

満州の、即時承認を高調す 駒井長官を迎へて『九州日報』8 月 10～12 日

新興日本の動向に就いて『工場世界』13-9、8 月 10 日

日本に使して国民大衆諸君に告ぐ[8 月 9 日於中央放送局]『講演』191、8 月 20 日

現実を直視せよ 内外時局問題に対する所見[インタビュ]『ダイヤモンド』20-25、8 月 21 日

満州国即時承認を高調す[8 月 21 日駒井氏歓迎会演説速記於東京会館]『我観』106、9 月 1 日

この非常時に政府の決心を問ふ[議会演説速記]『九州日報』9 月 1～8 日

駒井長官を迎へて満州国即時承認を高調す『朝鮮地方行政』11-9、9 月 1 日

新日本発展の大策『雄弁』23-9、9 月 1 日

国民同盟は何を主張する『日本講演通信』155、9 月 7 日

国際登録は甚だ容易[「時事片々」]『九州日報』9 月 9 日

極東日本の重責更に大[声明]『九州日報』9 月 16 日

[「名士 問合せ回答 一、私が三十五才の時は何処で何をしてゐたか。二、今から三十五年前(明治三十年)の私は、何処で何をしてゐたか。」]『実業之日本』35-19、10 月 1 日

滿洲国の独立と日本の根本大策[文責在記者]『新天地』12-10、10 月 1 日

中野正剛氏歓迎座談会[9 月 29 日座談会(於朝鮮ホテル)]『朝鮮公論』20-10、10 月 1 日

日本の対滿蒙政策を論ず『東邦時論』9-10、10 月 1 日

統制経済と強力政党(日滿統制経済の具体的方法)『内外公論』11-10、10 月 1 日[連載の完結。第 11 巻第 9 号以前は未見]

日滿統制経済に特殊機関を設けよ[談]『九州日報』10 月 3 日

ハリマン協定以来の火事泥主義を暴露 許すべからざる英米の野心[リットン報告書に関する談]『九州日報』10 月 4 日

*滿州国視察談『日本講演通信』161、10 月

旻天答へず 亡き河本本社長を語る『九州日報』11 月 13 日

## 1933(昭和 8)年

西郷隆盛を語る『日の出』2-1、1 月 1 日

日本経済革命論と清水君『九州日報』1 月 6～8 日

国際正義の再建『国民新聞』1 月 6～10 日

国際正義の再建『九州日報』1 月 9～13 日

強力政治論『九州日報』1 月 24～26、29、30 日

強力政治論『改造』15-2、2 月 1 日

強力政治論『日本講演通信』177、2 月 24 日

連盟脱退に直面して『日本講演通信』177、2 月 24 日

連盟脱退に直面して『九州日報』2 月 28 日、3 月 2～6 日

連盟脱退の我が財界に及ぼす影響如何を主題とする座談会『経済情報』8-3、3 月 1 日[2 月 20 日座談会(於丸の内会館):石橋治郎八、徳田六郎、大口喜六、大熊真、渡辺政人、河合良成、加藤鯛一、横田信一、田川大吉郎、鶴見祐輔、芦田均、中島義治、梅浦健吉、山口敏夫、松方幸次郎、二神駿吉、小島精一、佐羽大三郎、円地与四松、水野広徳、下河辺健二、高橋亀吉、落合久次]

千倉豊吉君を送る『九州日報』3 月 14 日

更生期に立つ帝国の外交[3 月 20 日(於報知新聞社講堂)]『旬刊講演集』319、3 月 30 日

恐慌無き孤立『外交時報』680、4 月 1 日

孤立日本の政治経済[「連盟脱退後の諸問題」]『財政経済時報』20-4、4 月 1 日

連盟脱退と名誉の孤立[「連盟脱退後の日本」]『政治経済時論』8-4、4 月 1 日

[「ジツギヨウサロン 読物 名士川柳大会」]『実業之日本』36-8、4 月 15 日

『総辞職は決定的』[談]『九州日報[夕刊]』4 月 18 日

駒井氏を迎へて[4 月 13 日於朝日講堂]『講演』216、4 月 30 日

孤立日本の政治経済『新東洋』2-5、5 月 1 日

強力政治と新日本の建設[「強力政治論」]『政治経済時論』8-5、5 月 1 日

*満洲・支那・世界経済会議 諸問題に直面し国策確立の急務を叫ぶ『事業之日本』12-6、6 月 1 日

政局座談会『ダイヤモンド』21-17、6 月 1 日[出席者：半沢玉城、若宮卯之助、常松三郎、清沢洌、直木三十五、前田蓮山、岸井寿郎、石山賢吉、安田与四郎]

王道に基き亜細亜民族団結せよ[5 月 30 日大東文化学院弁論部主催亜細亜問題大講演会於神田一ツ橋教育会館]『講演の友』1-5、6 月 22 日

国民の覚悟 我国の極東モンロー主義確立への新気運は来る[談]『九州日報[夕刊]』7 月 7 日

東洋民族結成の大使命『政治経済時論』8-8、8 月 1 日

亜細亜民族団結せよ『東邦時論』10-8、8 月 1 日

*大亜細亜モンロー主義の提唱『日本講演通信』200、[9 月 5 日]

国策協定策を検討す『経済往来』8-11、10 月 1 日

大亜細亜モンロー主義の提唱『新国民』58-1～6、10 月 5 日、11 月 5 日、12 月 5 日、**1934 年** 1 月 5 日、2 月 5 日、3 月 5 日、

統制経済を急げ 救世の大獅子吼 国民全階級参加せよ[演説速記]『九州日報』10 月 9 日

国策申合せを批判する[談]『九州日報』10 月 22 日

現前の問題を先づ片づけよ あとは気永にやるがよい[「満州事変 我等はかく主張する」]『大阪朝日新聞』10 月 28 日

余の労働運動指導原理[「特別寄稿」]『政治経済時論』8-11、11 月 1 日

私は何故逓友同志会に入つたか[10 月 13 日、中野正剛氏と記者の一問一答於東方会]『労働経済』4-11、11 月 1 日

国家改造の指標[11 月 2 日於日比谷公会堂]『講演』236、11 月 20 日

余の国家改造計画の大綱『政治経済時論』8-12、9-1､2、12 月 1 日、**1934 年** 1 月 1 日、2 月 1 日

文化事項の重大性『新美術』2-12、12 月 5 日＜東京国立博物館資料館所蔵＞

労働運動に対する私の信念『工場世界』14-13、12 月 10 日

非常時日本国家改造論[11 月 21 日(於朝日講堂)]『旬刊講演集』344、12 月 10 日

## 1934(昭和 9)年

日本改革論『大阪毎日新聞』1 月 1､3～9､12～15 日

合法的国民運動あるのみ[「一九三六年を目指す七名家時局大講演」]『現代』15-1、1 月 1 日

極東モンロー主義と強力政治の必要『東邦時論』11-1、1 月 1 日

国民よ、進め 悲観を越えて『新潟新聞』1 月 1 日

大亜細亜モンロー主義の提唱『雄弁』25-1、1 月 1 日

*統制経済論『政界春秋』20-1、1 月

*非常時国家改造の動向『青年日本』10-1、1 月

愛郷塾の弾圧も亜流の続出は何故ぞ 現経済機構は農村を崩壊する[演説速記]『九州日報』1 月 26 日

政党政治は復活するか『改造』16-2、2 月 1 日[1 月 8 日座談会(於帝国ホテル):島田俊雄、長谷川如是閑、富田幸次郎、松岡洋右、佐々弘雄、大森義太郎、山本実彦]

非常時の本質如何－斎藤内閣を難詰す－[第 65 議会質問演説速記]『日本講演通信』224、2 月 5 日

現下日本の急務[2 月 22 日(於青山会館)]『旬刊講演集』351、2 月 28 日

統制経済の確立『財政経済時報』21-3、3 月 1 日

国民内閣出現への過渡期[「特輯政局はどう変はる？」]『ダイヤモンド』22-7、3 月 1 日

余が抱く理想内閣[「嵐に揺ぐ斎藤内閣」]『中央公論』49-4、4 月 1 日

足ばかり十本描く[「兄弟を語る」]『週刊朝日』25-17、4 月 8 日

特別会計座談会『逓信協会雑誌』308＜通信事業特別会計実施記念＞、4 月 10 日[座談会:南弘、前田利定、安達謙藏、望月圭介、三土忠造、古島一雄、小池仁郎、内田信也、若宮貞夫、桑山鐵男、植原悦二郎、川崎克、東郷實、坂野鉄次郎、伊豆冨人、宮澤裕、牧野良三、大橋八郎、立花種忠、上ノ畑悌二、平沢要、平井貞三、武田泰郎、久埜茂、山本直太郎、米沢與三七、富安健次、猪熊貞治、西郁知一]

*国家改造計画案(八)『日本精神』54、5 月 5 日

非常時局の展望『大倉高等商業学校東亜事情研究』15、7 月 15 日

亡き妻たみ子を偲ぶ『婦人倶楽部』15-9、9 月 1 日

「政党に復活力ありや」座談会『文芸春秋』12-9、9 月 1 日[出席者:前田米藏、安藤正純、俵孫一、富田孝次郎、河崎克、安部磯雄、加藤鯛一、宮沢俊義、阿部真之助]

時評『我観』12-10、10 月 1 日【軍縮方針の鉄則、日米の喰ひ違ひ、極東政策の推進力、国際対立の強化と複雑化、対支外交好転の原動力、覚悟なし対策なし、官僚ファッショの正態、名節なき精神作興論、怪しき資本家群の代弁者、顛落より再生へ】

戦争は避けられぬか？『我観』12-10、10 月 1 日[9 月 4 日座談会(於丸の内日本倶楽部):本多熊太郎、風見章、竹内謙二、山崎靖純、小島正、小島精一、三宅雪嶺、森武夫、関根群平、杉森孝次郎]

市電争議を斯く見る[「東京市電争議批判」]『政治経済時論』9-10、10 月 1 日

時論『我観』12-11、11 月 1 日【庸人国を誤る、痴漢長刀を横たう、パンフレツト問題、岡田内閣の解体、アリゾナの暴状を如何】[「パンフレツト問題」は、『「国防の本義と其強化の提唱」に対する評論集』(陸軍省新聞班編・刊、1934 年)収録]

親露外交論『改造』16-12、11 月 1 日

陸軍の政治干与[「陸軍パンフレットの批判」]『経済往来』9-11、11 月 1 日[『「国防の本義と其強化の提唱」に対する評論集』(陸軍省新聞班編・刊、1934 年)収録]

正々堂々たる主張[「陸軍国策の総批判」]『中央公論』49-12、11 月 1 日[『「国防の本義と其強化の提唱」に対する評論集』(陸軍省新聞班編・刊、1934 年)収録]

*官僚フアツショの正態『経国時評』1、11 月

時論『我観』12-12、12 月 1 日【日､英､米非常時政策のコントラスト、偸安者流の幻滅、無惨なる官僚の秀才、若槻総裁引退の意義、政党崩壊期に入る、米なきに米倉を如何】

伝統的官僚予算の最後のもの[「新予算と財界の前途如何」]『経済情報』9-26、12 月 1 日

*全国民運動の一環としての労働運動綱領『日本講演通信』211、月日未詳

## 1935(昭和 10)年

時論『我観』13-1、1 月 1 日【政友会醜態の暴露、政党封建の打破、議会弁論の放送】

小国民教育の貧困とその救済精神(現代教育の欠陥とその指針)[1934 年 11 月 29 日講演、青山師範青道会主催講演会於青山会館]『講演の友』58、1 月 1 日

日本の行くべき途『九州日報』1 月 3 日

新党樹立を語るの夕『経済往来』10-2、2 月 1 日[1934 年 12 月 30 日座談会(於帝国ホテル):秋田清、杉森孝次郎、緒方竹虎、室伏高信]

岡田内閣の財政政策に対する質問[「第六十七議会と農政問題」]『農政研究』14-2、2 月 1 日

勢ひ成れば天下は動く－中野正剛氏語る－[談]『時局』28、2 月 5 日

時論『我観』13-4､3 月 1 日【政府と政党との無力化､反動的自由主義時代､現代世界の三大脅威とは？､国民的自由に対する脅威？､戦争に対する脅威、次に来るものは何ぞ】

阿部真言君を弔ふ『新天地』15-3、3 月 1 日

時論『我観』13-5、4 月 1 日【極東諸関係の再編成、以夷制夷の結末、時代錯誤の英米提携論、日支提携の経済的背景、北鉄交渉の成立と極東関係の整調】

阿部真言君を悼む『我観』13-5、4 月 1 日

時論『我観』13-6、5 月 1 日【歓迎満州国皇帝所感、天皇機関説論議の背景、ストレーザ会議と欧州の緊張、内閣審議会の清算作用、ストレーザ会議の展開】

岡田内閣への挑戦『経済往来』10-5、5 月 1 日

自由主義の全盛[「顛落自由主義の検討」]『中央公論』50-5、5 月 1 日

六月の論壇『東京朝日新聞』5 月 31 日、6 月 1～6 日【審議会と調査局、国防と財政、学者の要望、欧州の風雲、一木喜徳郎、小栗警視総監】

時論『我観』13-7、6 月 1 日【内閣審議会の成立、軟派政客の成立、池田､各務の役割、所謂「新政党計画」、安達さんに望む】

時論『我観』13-8、7 月 1 日【国際新情勢の認識、北支問題の真意義、日支共通の大使命、糞土の墻と政党運動】

政局新分野の動向『月刊維新』2-7、7 月 1 日

北支問題を中心に転廻する政治諸情勢『ダイヤモンド』23-19、7 月 1 日

時事所感－現下の日本の諸問題－[6 月 22 日講演、大倉高等商業学校東洋事情研究会主催於神田青年会

館]『講演の友』77、7 月 20 日

時論『我観』13-9、8 月 1 日【北支問題の必然性、非常時の再燃拡大、選挙粛正の陣容】

北支新政府をめぐりて『我観』13-8、8 月 1 日[座談会：野田蘭蔵、磯村少佐、大西斉、出井盛之、小島精一]

時論二題『時局』33、8 月 1 日[『我観』から転載]

時事所感『大倉高等商業学校東亜事情研究』17、8 月 10 日

時論『我観』13-10、9 月 1 日【保境安民より独立建国へ、英国対支特使の認識、治外法権撤廃の意義、内閣審議会の失踪】

時論『我観』13-12、11 月 1 日【英伊の対立を中心として、現状維持派と打開派の対陣、空軍の新威力、対支工作の国防的解説】

地方選挙と新興勢力[「地方選挙の戦蹟を顧みて」]『月刊維新』2-11、11 月 1 日

日本拡大強化論[11 月 12 日(於早稲田大隈講堂)]『旬刊講演集』412、11 月 20 日

時論『我観』13-13、12 月 1 日【全支那動揺の世界的背景、第二次大戦の前奏、政府の仮死状態】

危機に立つ日本の対支政策[「論壇」]『経済情報』10-32、12 月 1 日

*学友会雑誌の思い出『[修猷館]同窓会雑誌』猷館中学創立五十周年記念号、12 月[『玄南文集』収録]

## 1936(昭和 11)年

革新政治の展開[「主張」]『我観』14-1、1 月 1 日

支那は何うなる？日英米蘇の動向『我観』14-1、1 月 1 日[座談会：高木陸郎、山崎靖純、森武夫、池田中佐、岡田少佐、梨本祐平、小島精一]

日本外交の反省『改造』18-1、1 月 1 日

暁春に騎る『九州日報』1 月 1 日

日本拡大強化論 日本の危機？世界は迫る！[1935 年 11 月 12 日講演於早稲田大学大隈講堂]『講演の友』93、1 月 1 日

渡支に際して『時局』37、1 月 1 日

如何にか環境を切り拓く[「どう打開する」]『時事新報』1 月 6､7 日

国民の全能力を国家経営に綜合せよ 支那問題解決の根本義[政局随想]『大阪朝日新聞』1 月 7 日

我が自主的建艦方針 希望あつて恐怖なし[「政局随想」]『大阪朝日新聞』1 月 8 日

友邦支那の現状に何をなすべきか[「政局随想」]『東京朝日新聞』1 月 12 日

国民の全能力綜合 これ政治の使命[「政局随想」]『東京朝日新聞』1 月 14 日

蒋介石氏と会談す『大阪毎日新聞』1 月 14～16 日

支那漸く我を解す 外相捨身で臨め 排日鎮静は不可能ならず『大阪毎日新聞』1 月 17 日

日支関係打開の方策を蒋介石と語る『ダイヤモンド』24-4、2 月 1 日[1 月 20 日座談会(於交詢社)：杉森孝次郎]

支那観察者の報告を聴く『日本評論』11-3、3 月 1 日[座談会(於日比谷陶々亭)：太田宇之助、大西斉、小島精一、杉森孝次郎、原勝、室伏高信]

無風帯圏に足踏みするもの[「新内閣批判」]『ダイヤモンド』24-8、3 月 11 日

動乱の後に来るもの 国家改造の強化へ『早稲田大学新聞』32、3 月 11 日

時論『我観』14-4、4 月 1 日【広田内閣に対する社会的肯定、無風帯は変化を誘致す、『全く新しい真の政権』】

非常時青年の修養『済美』＜水海道中学校済美会＞26、 4 月 15 日

*興国の烽火『皇国運動』1-1、4 月

時論『我観』14-5、5 月 1 日【強力政治は強権政治に非ず、国防問題､産業問題､農村問題、綜合統制経済とは何か、日本に立ちて国際を観よ】

純情の朋満川君[「満川亀太郎氏の面影」]『月刊維新』3-6、6 月 1 日

時論『東大陸』14-6、6 月 1 日【議会に現はれたる粛軍方針、現状打開の針路、伊太利の対連盟策が与ふる示唆】

男児の文学[文責在記者「我観・日本文学」]『文芸懇話会』1-6、6 月 1 日

時論『東大陸』14-7、7 月 1 日【日英関係の複雑性とリース・ロス、対ソ軍事関係と外交関係、日本非常克服上の課題】

臨時議会と非常時政局の展望『東大陸』14-7、7 月 1 日[座談会：杉浦武雄、渡辺泰邦、三浦虎雄、小山亮、木村武雄、田中養達、三田村武夫、竹尾弌、斉藤直幹、関山茂太郎]

内を観よ、外を観よ（中野正剛）『連合情報』1264、7 月 4 日

時論『東大陸』14-8、8 月 1 日【非常時国策の可能性と不可能性、文官任用令を撤廃せよ、統制機関よりは統制内閣、対支外交全面的落潮の諸因】

現代日本の環境『大倉高等商業学校東亜事情研究』19、9 月 1 日

北支に於る川越大使の活躍とその効果[「論壇」]『経済情報』11-24、9 月 1 日

国際政局を語る『東大陸』14-9、9 月 1 日[座談会：黒田礼二、富士辰馬、杉森孝次郎、中山優、大西斉、斉藤直幹]

人民戦線か国民戦線か『日本評論』11-9、9 月 1 日[座談会：阿部真之助、杉森孝次郎、大森義太郎、麻生久、風見章、石浜知行、板倉進、室伏高信]

現代日本の環境[8 月 17 日(於神田一橋講堂)]『旬刊講演集』440、9 月 10 日

時論『東大陸』14-10、10 月 1 日【日支関係悪化の再認識、伝統外交の破滅、敵は蔡廷楷に非ず、「電力民有国営案」の奥に在るもの】[「日支関係悪化の再認識」は『日本は支那を如何する』収録]

支那をどうする？『都新聞』10 月 1～3 日[(3)のみ『新聞集成昭和編年史 昭和十一年度版』(明治大正昭和新聞研究会、1979 年)収録]

積極日本主義こそ革新諸政策の基調『東京朝日新聞』10 月 15 日

*東亜外交の整調『新東洋』5-10、10 月

時論『東大陸』14-11、11 月 1 日【竜頭蛇尾の対支交渉、生産力増大を脅威するもの、行政機構改革の根本義、日本式パーペンの役割】[「竜頭蛇尾の対支交渉」は『日本は支那を如何する』収録]

抗日を支那はどうするか座談会『文芸春秋』14-11、11 月 1 日[座談会：大蔵公望、風見章、木村増太郎、佐藤安之助、高木陸郎、林久治郎、竹内夏積][清沢洌・室伏高信編『支那の知識』＜時局知識シリイズ 2＞(青年書房、1937 年 8 月 12 日)収録]

東洋大変革の渦『雄弁』27-11、11 月 1 日

*革新諸政策の基調は積極大日本主義に在り『国論』3-11、11 月

*竜頭蛇尾の対支交渉『新東洋』[5-11]、11 月

*広田内閣の役割と官僚政治『新日本民論』11 月

時論『東大陸』14-12、12 月 1 日【対支交渉の全面的崩壊、ヒトラアの軍部統制を見よ、「民有国営」思想の行衛】[「対支交渉の全面的崩壊」は『日本は支那を如何する』収録]

対支外交再検討の秋『東京日日新聞』12 月 14～19 日(『大阪毎日新聞』12 月 14～19 日)[『日本は支那を如何する』収録]

『明日の政治』を語る『大阪朝日新聞』12 月 23～25､27～31 日、1937 年 1 月 5～7､9､11～16 日[明日の政治を語る『東京朝日新聞』12 月 23～25､27､29～31 日、1937 年 1 月 3～9､11､12､14 日][座談会：河上丈太郎、近衛文麿、佐々木惣一、建川美次、蝋山政道、鳩山一郎、松本烝治、結城豊太郎、芳沢謙吉、斉藤隆夫]

## 1937(昭和 12)年

大和民族への試錬『九州日報』1 月 1 日

時論『東大陸』15-1、1 月 1 日【日独防共協定の波紋、蒋介石の遭難と日支関係】[「蒋介石の遭難と日支関係」は『日本は支那を如何する』収録]

[「我等はかく戦ふ 第十七議会の仮想質問」]『アサヒグラフ』28-5、1 月 27 日

*対支外交の再検討の秋『新日本民論』1 月

*極東より外来勢力を駆逐せよ『今日の知識』1 月

革新勢力は前進する[「政変の核心を衝く」]『ダイヤモンド』25-4、2 月 1 日

時論『東大陸』15-2、2 月 1 日【政府､政党の攻防、外交叱責の角度、杜撰なる厖大予算、物価暴騰と生産力拡充工作の怠慢、電力飢饉を警戒、更に石炭飢饉をも警戒】

暫く放置せよ[「広田内閣の審判」]『改造』19-2、2 月 1 日

人の欲する所は恋と名なり－徳富蘇峰翁文章報国五十年記念祝賀会に於て－[「卓上演説模範例」]『雄弁』28-3、3 月 1 日

時論『東大陸』15-4、4 月 1 日【林内閣の矛盾性、既成政党の外交認識、佐藤外相の弱態】

革新の動向促進[「戦ひに備ふる態勢」]『読売新聞』4 月 13 日

時論『東大陸』15-5、5 月 1 日【解散を繞る官僚内閣と既成政党、御用新党排撃、再解散は次の内閣で、東方会は斯く進む】

*弱体、佐藤外相と既成政党の外交認識『新東洋』6-5、5 月

時論『東大陸』15-6、6 月 1 日【再解散を繞る泥仕合と次の時代、社大党とその歴史的役割、空虚なる日英親善工作】[「空虚なる日英親善工作」は『日本は支那を如何する』収録]

内に革新常道樹立 外・日独提携の強化へ[「近衛内閣に要望」]『東京朝日新聞』6 月 13 日[日独提携の強化へ[「近衛内閣に要望す」]『大阪朝日新聞』6 月 13 日]

*国民大衆に愬ふ『時局』6 月

政治と科学を語る『科学知識』17-7、7 月 1 日[5 月 31 日座談会：長谷川如是閑、蝋山政道、片山哲、石原純、斉藤隆夫、宮島幹之助、三宅驥一]

時論『東大陸』15-7、7 月 1 日【革新常道への過程、革新実現の予備工作、日独協定の宿命的発展】

国際的環境より観たる日支関係[6 月 12 日於神田一橋講堂]『旬刊講演集』471、7 月 30 日

時論『東大陸』15-8、8 月 1 日【不拡大方針か全面的強圧か、以夷制夷は不可能、媚態外交を清算せよ、強力外交の確立】[「強力外交の確立」は『日本は支那を如何する』収録]

国際環境より見たる日支問題『大倉高等商業学校東亜事情研究』＜第 13 回講演集＞特輯号、8 月 5 日

大増税を断行 支那軍閥を粉砕せよ『やまと新聞』8 月 9 日

明朗東亜への道 欧米への支那の媚態 この迷夢打破が焦眉『日本読書新聞』17、8 月 15 日

*媚態外交を清算せよ(上)『農民』8 月 15 日

*革新常道樹立と日独提携の強化『新東洋』[6-8]、8 月

時論『東大陸』15-9、9 月 1 日【対支一撃の重大意義、『支那は第二のスペインか』－世界戦争への禍機、動乱支那を繞る日英蘇関係、革新発展への拍車】[『日本は支那を如何する』収録]

*日支問題の重大意義(上)『農民』9 月 12 日

日支事変と国際正義『時潮』3-9、9 月 15 日

支那事変と国際情勢[9 月 22 日於早稲田大学大隈講堂]『講演』375、9 月 30 日

時論『東大陸』15-10、10 月 1 日【長期抗日の崩壊、外来勢力の没落、遣外使節絶対無用】[『日本は支那を如何する』収録]

日本は支那をどうするか『改造』19-11、10 月 10 日

東亜政治の悲劇『文芸春秋』15-13[臨時増刊]、10 月 15 日[『日本は支那を如何する』収録]

時論『東大陸』15- 11、11 月 1 日【参議制の責任、宣伝は大所よりせよ、外交上の警戒期】

*日独伊の提携を強化せよ『講演の友』11 月下旬

私の崇拝する偉人 西郷隆盛先生『小学五年生』17-10、12 月 1 日

出游に臨みて『東大陸』15-12、12 月 1 日

動かす人秋山定輔を囲む座談会『日本評論』12-13、12 月 1 日[出席者：小林一三、秋田清、下村宏、長島隆二]

媚英外交の清算と三国協定の強化 [11 月 11 日中野氏独伊訪問壮行会於軍人会館]『講演』236、12 月 10 日

*難局に立つ者の覚悟『躍進之日本』月日未詳、1912 年 10 月～1913 年 11 月頃

## 1938(昭和 13)年

老英帝国を衝く－独伊訪問の途に上るに際して『現代』19-1、1 月 1 日

媚英外交清算の秋『創造』8-1、1 月 1 日

事変を徹底的に解決せよ『内外公論』17-1、1 月 1 日

客窓に響き渡る日本躍進の足音[「国民に寄す 各国民使節」]『大阪毎日新聞』1 月 5 日

疑ふな！直進せよ[「国民に寄す 各国民使節」]『大阪毎日新聞』1 月 6 日

ムッソリーニ首相と語る『大阪毎日新聞』1 月 27、29、31 日

日本に立ちて世界を観る[2 月 15 日羅府新報社主催講演(於大和ホール)]『羅府新報』2 月 17～19、21～26、28 日、3 月 2、3、5、7～10 日

本社主催国民使節船中座談会『東京日日新聞』2 月 25～28 日、3 月 1 日[2 月 23 日座談会(於龍田丸):大倉喜七郎、高石真五郎]

盟邦“独伊”を訪れて『都新聞』3 月 5～7 日

独伊より帰りて日本国民に檄す[3 月 13 日於日比谷公会堂]『講演』392、3 月 20 日

大道を驀らに！[談「青年のページ」]『新愛知』3 月 22、24、25、27、29、30 日

ヒトラーとムッソリーニ『改造』20-4、4 月 1 日

新時代の弁論『大日本青年』1-1～4、4 月 1、15 日、5 月 1、15 日

国民よ起て、－独伊より帰りて－『東大陸』16-4、4 月 1 日

わが報告書『日本評論』13-5、4 月 1 日

現状打破勢力としての独伊『文芸春秋』16-6、4 月 1 日

独伊の印象[「海外見聞記」]『ラヂオ講演講座』32、4 月 5 日

ベルリンローマ東京枢軸に立脚して[4 月 4 日講演於大阪中央会堂]『講演時報』15-11、4 月 15 日

*独伊を訪ねて『講演の友』4 月下旬

日本の進み行く道 ヒットラー、ムッソリーニの両雄に防共の決意を叩く『家の光』14-5、5 月 1 日

独・伊両巨人との会見記『現代』19-5、5 月 1 日

日本青年よ真直に行け－独・伊を訪問して－『向上』32-5、6、5 月 1 日、6 月 1 日

革新政治の第一目標 何よりも眼前の時艱を克服せよ[「革新日本の歴史的使命」]『中央公論』53-5、5 月 1 日

時論『東大陸』16-5、5 月 1 日【伊太利使節を迎へて、政治的指導と英雄的気魂、英独伊関係と日本】

支那の単独管理に進め[「長期戦争か短期断行か」]『日本評論』13-6、5 月 1 日

ムッソリーニ首相とヒトラー総統を語る『日の出』7-5、5 月 1 日

祖国日本よ怖れず進め！－独・伊訪問より帰りて[3 月 13 日於帰朝報告演説会]『雄弁』29-5、5 月 1 日

現下の独逸を語る『龍門雑誌』596～598、5 月 25 日、6 月 25 日、7 月 25 日

民族の持ち味[「日曜随想」]『都新聞[夕刊]』5 月 30 日[黒田重吉編『時局百眼』(秋豊園出版部、1939 年)収録]

時論『東大陸』16-6、6 月 1 日【革新政治と新政党、自主外交を確立せよ、英伊協調と独伊の立場】

*支那の単独管理に進め『時局ニュース』6 月 5 日

伊太利・独逸より帰りて[4 月 15 日講演(於海軍館)]『有終』25-6、6 月 5 日

日独提携の強化へ[「近衛内閣に要望す」]『大阪朝日新聞』6 月 13 日

明治変革期の英雄を語る『大陸』1-2、7 月 1 日[5 月 12 日座談会(於山水楼)：佐々弘雄、徳富蘇峰、木村毅、杉山平助、藤井甚太郎、山本実彦]

時論『東大陸』16-7、7 月 1 日【近衛内閣の更生と対支問題、フランコ軍の英国船撃沈、政友会の内訌、無産党の自壊声明】

事変一年に際して中野正剛氏に戦時外交の今後を訊く[インタビュ]『ダイヤモンド』26-20、7 月 11 日

和平への唯一通路[7 月 11 日講演於日比谷公会堂]『講演』404、7 月 20 日

英国恐るゝに足らず[7 月 11 日講演於日比谷公会堂]『講演時報』15-21、7 月 25 日

和平と西沙島問題 宇垣外相の媚英的態度を駁す[「時評」]『時局月報』11-8、8 月 1 日

[国雄生「和平の形式に就て一問一答」中の上記評論に関する一問一答録]『時局月報』11-8、8 月 1 日

長期戦を戦ひ抜け！『大陸』1-3、8 月 1 日[座談会：尾崎秀実、杉森孝次郎、古野伊之助、広瀬久忠、山之内二郎、平貞蔵]

*大陸の長期経営『大陸日本』8 月 1 日

対外国策を強化せよ[「対外強硬国策の提唱」]『東大陸』16-8、8 月 1 日

大陸の長期経営[「大陸経営の諸問題」]『日本評論』13-9、8 月 1 日

事変解決の途と第三国『文芸春秋』16-13、8 月 1 日

外交強化と大東亜建設[文責在記者]『都市と農村』9-8、8 月 15 日

事変下の国民精神[8 月 10 日 AK 放送]『ラヂオ講演講座』46、8 月 25 日

時論『東大陸』16-9、9 月 1 日【東亜の雰囲気を制圧せよ－八月六日ラヂオ放送、張鼓峰事件と宇垣外交の失態】

宇垣外相に与ふ[「漢口攻略以後」]『日本評論』13-10、9 月 1 日

対英媚態外交を戒む『文芸春秋』16-16[時局増刊 12]、9 月 10 日

*極東外交を制圧せよ『時潮』4-9、9 月

*第三国の干渉を制限すべし『国策研究』9 月

日本外交の指導原理[「全体主義政策特輯」]『東大陸』16-10、10 月 1 日

英国の極東退陣を予約す わが広東攻略論の勝利とその意義『国策研究』9-11、11 月 1 日

時論『東大陸』16-11、11 月 1 日【日支事変外交観の跋、日本の出兵これより始まる、チエツコ問題の解決】

更に海南島へ－武漢攻略後に展開する第三国関係－[「武漢攻略後の内外情勢」]『時局月報』11-12、11 月 5 日

禍根・“租界”を絶て 新政支那当然の権利[「長期建設に乗出す」]『東京朝日新聞』11 月 16 日[『長期建設への途』(東京朝日新聞発行所、1938 年)収録]

東亜の禍根一掃 援蒋各国に差別待遇は必然 [「長期建設に乗出す」]『大阪朝日新聞』11 月 16 日

世界新秩序の建設と勝利者日本の外交『いのち』6-12、12 月 1 日

時論『東大陸』16-12、12 月 1 日【支那には友邦として､列国には戦勝国として、南海行】

近頃の新党運動[「政界だより」]『時局月報』11-13、12 月 20 日

*新支那の建設に当れ『商工之日本』12 月

## 1939(昭和 14)年

野より映画界へ[談]『映画朝日』16-1、1 月 1 日

長期建設の指導原理－青年教師諸君に告ぐ－[「論説」]『教育研究』492、1 月 1 日

聖戦第三年を迎へてこれからの日本これからの支那を語る座談会『青年』24-1、1 月 1 日[出席者：内ケ崎作三郎、久保田久晴、松本忠雄、小平権一、伍堂卓雄、白鳥敏夫]

誠意〃勇気〃[「青年に望む第一要件」]『青年』24-1、1 月 1 日

時論『東大陸』17-1、1 月 1 日【「国民再編成」の悲喜劇、東方会と国民運動、対米媚態と第三国依存を止めよ、ソ連敢て日本を愚弄するか】

ヒツトラー総統を語る『雄弁』30-1、1 月 1 日

遠く想ひを戦線に馳す『九州日報』1 月 2 日

時論『東大陸』17-2、2 月 1 日【日支事変処理要綱、遠く想を戦線に馳す】

声明書[記事「けふ結党に着手 社大・東方合同声明」中の社会大衆党執行委員長安部磯雄との共同声明]『東京朝日新聞』2 月 10 日

事変解決の国民的指標[1 月 20 日(於東方会大会)]『講演』425、2 月 20 日

満天下の同志諸君に告ぐ『東大陸』17-3、3 月 1 日

時論『東大陸』17-3、3 月 1 日【東方会の発展的進出、東方会第一回全国大会に臨みて】

議論よりも行動[「東方会社大党懇親会挨拶」]『東大陸』17-3、3 月 1 日

国際情勢と日支事変[「講演」]『教育研究』495、4 月 1 日

東方・社大の合同と国内革新を中野正剛氏に訊く[香田九郎によるインタビュ]『話』7-4、4 月 1 日

東方会は邁進する [「時論」]『東大陸』17-4、4 月 1 日

*長期建設の指導原理と青年教師『学習指導』4 月？

対支国策の根幹を論ず『改造』21-5、5 月 1 日

時論『東大陸』17-5、5 月 1 日【米国大統領の平和宣伝譜、日・独・伊枢軸と英米仏、急速効果的解決策とは？】

国民運動の方向を語る 中野正剛氏に註文する座談会『講演』433、5 月 10 日[4 月 19 日新日本文化の会主催座談会(於虎ノ門晩翠館)：倉田百三、藤沢親雄、尾崎士郎、林房雄、津久井龍雄、藤田徳太郎、保田与重郎、佐藤春夫、三宅雪嶺、中河与一、大木惇夫、岡山巌、難波田春夫、杉森孝次郎、富沢有為男、斉藤直幹、佐藤吉熊]

時局雑感『経済情報 政経篇』14-12、5 月 10 日

日独伊軍事同盟論－支那事変の收拾策－『加州毎日新聞』5 月 21～29､31 日、6 月 1 日

断乎わが動向を決せよ[講演速記、文責在記者]『旬刊時事特輯』24、6 月 1 日

中野正剛氏を囲み東亜新事態を語る座談会『新天地』19-6、6 月 1 日[ 座談会：長守善、中楯壽郎、下條英男、市川正義、武藤潔、千葉良一郎、青木了一、稻嶺一郎]

時論『東大陸』17-6、6 月 1 日【日本は何れに向ふか、交戦権の遂行と租界処分の断行、厦門入港の英米陸戦隊】

日独伊軍事同盟論－支那事変の収拾策『話』7-6、6 月 1 日

新日本の進路『大阪時事新報』6 月 10～14 日

日本の動向を決定せよ[6 月 2 日於日本青年館]『旬刊講演集』536、6 月 10 日

租界問題と対英外交批判[「急迫せる租界問題」]『ダイヤモンド』27-18、6 月 21 日

日本の動向を決定せよ[6 月 2 日於日本青年館]『講演』438、6 月 30 日

日本外交の大道『革新』2-7、7 月 1 日

全支の租界を撤収すべし[文責在記者]『国策研究』10-7、7 月 1 日

日本の動向を決定せよ『事業之日本』18-7、7 月 1 日

日本よまっすぐに[談]『実業之日本』42-13、7 月 1 日

日独伊三国同盟と事変処理『中央公論』54-7、7 月 1 日

日本の動向を決定せよ[「時論」]『東大陸』17-7、7 月 1 日

事変二周年外交批判『日本評論』14-7、7 月 1 日

*日独伊軍事同盟に邁進せよ『講演の友』7 月上旬

東京会談を監視せよ[文責在記者]『旬刊時事特輯』28、7 月 21 日

聖戦貫徹外交と三国軍事同盟『革新』2-8、8 月 1 日

時論『東大陸』17-8、8 月 1 日【ヂエスチユアより度胸、先づ一撃を加へよ、三国軍事同盟を重視せよ、吾等赤露を怖れず】

日本は断乎邁進すべし[6 月 2 日於青山青年会館]『雄弁』30-8、8 月 1 日

日英会談の真相を衝く[7 月 31 日於日比谷公会堂]『講演』442、8 月 10 日

亜細亜民族の蜂起 東京会談を嗤ふ『旬刊時事特輯』30、8 月 11 日

事変と国際情勢[8 月 5 日 AK 放送]『ラヂオ講演講座』82、8 月 25 日

*租界問題の解決に当り断乎交戦を行使せよ『商工之日本』8 月

*日本の動向を決定せよ『官界情報』8 月、10 月

事変解決の近道『実業之日本』42-17、9 月 1 日

*老獪英国を撃つ『創造』9-9、9 月 1 日

反英運動と軍事同盟『東大陸』17-9、9 月 1 日

東亜干渉者退場せよ[「欧州動乱と日本の立場」]『読売新聞』9 月 6 日

独ソ不可侵条約と日本『文芸春秋』17-18[時局増刊 24]、9 月 10 日

ヨーロツパ戦局と日本の世界政策[「大戦に処すべき日本の態度」]『ダイヤモンド』27-27、9 月 11 日

日本の進路は変らず『旬刊時事特輯』35、10 月 1 日

大日本不動の大方針『東大陸』17-10、10 月 1 日

欧州戦乱に直面する日本外交『文芸春秋』17-19、10 月 1 日[9 月 8 日座談会：鹿島守之助、横田喜三郎]

日本に立ちて世界の風雲を見よ『中央公論』54-11、10 月 10 日

世界の雰囲気を制せよ『公論』2-9、11 月 1 日

打倒英国!! 日本参戦座談会『実業之世界』36-11、11 月 1 日[座談会:加藤重雄、下位春吉、匝瑳胤次、橘本欣五郎、堀切善兵衛、ボースラスビハリ、野依秀市]

時論『東大陸』17-11、11 月 1 日【政治的特権租界の晩秋、日本国民の魂を掴め】

禍根・“租界”を絶て 新生支那当然の権利[「長期戦説に乗出す」]『東京朝日新聞』11 月 18 日

英米対策・独ソ対策をどうする『東洋経済新報』1898、11 月 25 日[11 月 13 日座談会(於東洋経済新報社楼上)：植原悦二郎、水野伊太郎、蝋山政道、杉森孝次郎、鹿島守之助、茅原崋山、石橋湛山]

時論『東大陸』17-12、12 月 1 日【ノモンハンの肉弾に感謝、元寇の国難と日本非常時、自信に立ちて米国を見よ、自信に立ちて蘇連を見よ】

## 1940(昭和 15)年

試すべき腕の力 日本興廃の岐路 紀元二千六百年『九州日報』1 月 1 日

事変処理の根本策『実業之世界』37-1、1 月 1 日

官僚外交の欠陥を衝く『創造』10-1、1 月 1 日

時論『東大陸』18-1、1 月 1 日【恵まれたる非常時、幻影の脅威と日米関係、対蘇外交に大鉈を振へ、政治的指導力は誰が把るか】

非常時昂進に直面して『都新聞』1 月 5～7 日

*支那新中央政権に要望す『新東洋』9-1、1 月

対英米媚態成功の見込なし[「米内内閣と輿論」]『改造』22-2、2 月 1 日

時論『東大陸』18-2、2 月 1 日【米内々閣と英米の歓迎、媚態は逆効果を招請す、米内々閣行動の限度、財政経済物資政策の非常性】

世界の情勢と日本の進路[11 月 2 日於東京淀橋公会堂]『雄弁』31-2、2 月 1 日

敗戦主義を打破せよ[1 月 21 日於東方会第 2 回大会]『講演』460、2 月 10 日

時論『東大陸』18-3、3 月 1 日【媚態は重圧を招く、浅間丸事件の意義、米内々閣の無抵抗主義、対蘇会談の決裂、関西より九州へ】

事変解決と国内革新『旬刊時事特輯』51、3 月 11 日

時論『東大陸』18-4、4 月 1 日【政治能力の薄弱性、『米内』『阿部』『有田』『佐藤』『斉藤』問題、日本マンネリズムの制約】

日本マンネリズムの悲哀 内外の形勢切迫と政治の貧困『旬刊時事特輯』53、4 月 11 日

欧州大戦と強硬外交『改造』22-9、4 月 30 日[4 月 17 日座談会(於星ヶ丘茶寮)：白鳥敏夫、関根郡平]

時論『東大陸』18-5、5 月 1 日【第二次大戦の進展に表はれたる総力戦と政治的指導力、蘭領南洋問題

に先手を打て】

時論『東大陸』18-6、6 月 1 日【独乙軍絶対優勢と我当局者認識の再検討、新秩序建設原理の徹底観】

“近衛公の希望は国民的基礎の新党”きょう会見の中野正剛氏語る[談]『大阪朝日新聞[夕刊]』6 月 9 日

今！日本の開き直る時『旬刊時事特輯』60、6 月 21 日

永遠の熱血青年 東方会会長中野正剛氏と語る[田村生 による訪問インタビュ]『実業之世界』37-7、7 月 1 日

時論『東大陸』18-7、7 月 1 日【英国は裏切る、支那は期待する、米国は打算する、日本は傍観するか】

『世界の変局に際し同胞に愬ふ』座談会『現地報告』34、7 月 10 日[6 月 9 日座談会(於星岡茶寮)：末次信正、建川美次、橋本欣五郎、松本徳明、来間恭]

世界の大変局と日本の進路[7 月 2 日於日本青年館]『講演』476、7 月 20 日

新体制と外交政策の指向[文責在記者]『国策研究』11-8、8 月 1 日

時論『東大陸』18-8、8 月 1 日【新政治体制の試錬、国策転換とは？】

新体制推進座談会『新愛知』8 月 17～31 日、9 月 1､2 日[出席者：林房雄、橋本欣五郎、本位田祥男、小原正樹、亀井貫一郎、竹本孫一、永井柳太郎(紙上参加)、中野登美雄(紙上参加)、内田繁隆、松本徳明、広瀬豊作、平野学、千石興太郎]

*千載の好機を逸する勿れ『講演の友』8 月下旬

時論『東大陸』18-9、9 月 1 日【強力新体制の綱領】

英独決戦後の世界政治経済と我が対策を語る『東洋経済新報』1937、9 月 7 日[座談会：横田実、高橋亀吉、田村幸策、山崎靖純、出井盛之、内山徳治、根津知好]

新体制への私の注文『旬刊時事特輯』69、9 月 21 日

新体制は先づ行動よりーその行動を蘭印略取によつて示せ『講演時報』597、9 月 25 日

三国同盟の世界史的性格 国民的感情の結晶　他力本願は厳に戒慎『大阪毎日新聞』10 月 1 日

対談中野正剛橋本欣五郎『公論』3-10、10 月 1 日[9 月 4 日対談：橋本欣五郎]

時論『東大陸』18-10、10 月 1 日【新体制の天王山と蘭印問題】

日独伊三国同盟と日本の動向[10 月 10 日於日比谷公会堂]『講演』485、10 月 20 日

日独伊同盟の意義『独逸事情』9-11、10 月 25 日

議会新体制座談会『都新聞』10 月 26～29､31 日、11 月 1～3 日[座談会：有馬頼寧、大蔵公望、河上丈太郎、清瀬一郎、杉村章三郎、中野登美雄、堀切善次郎、前田米蔵]

時論『東大陸』18-11、11 月 1 日【三国同盟の成果を確保せよ、新体制と国民運動】

新体制に就いて『皇楯』1-1、11 月 1 日

新体制下の経済再編成『中外商業新報』11 月 4 日

経済革新の根本理念[「時評」]『東洋経済新報』1946、11 月 9 日

時論『東大陸』18-12、12 月 1 日【雄大なる構想より緊急なる実行へ、官僚人民戦線か国民全体主義か、経済革新基本要綱】

中野正剛氏を囲んで各大学生がものを訊く会『雄弁』31-12、12 月 1 日[10 月 24 日出席者：木田長次郎、

鎌田三幸、武田信男、今井正之、川島利雄、森田善二郎、諸橋捨松、大津正永、土井一之、鈴木正博]

三国同盟と新体制『ラヂオ講演講座』123、12 月 1 日

経済革新基本要綱『全ハガネ商聯盟会報』2-12、12 月 10 日

*[未詳]『新国民』12 月

## 1941(昭和 16)年

時局下に於ける国民の覚悟－東京府歯科医師会主催時局講演会に於いて－[「苑説」、文責在記者]『歯科公報』2-1、1 月 1 日

時論『東大陸』19-1、1 月 1 日【大政翼賛実践綱領、揺がぬ大東亜共栄圏】

歴史的な意義 世界新秩序建設に処する覚悟[「臣道実践の指標」]『京都日出新聞』1 月 4 日

押せば開く難関 大政翼賛の歴史的意義[談]『北国毎日新聞』1 月 4 日

大政翼賛の歴史的意義『九州日報』1 月 5 日

大政翼賛の歴史的意義『九州日日新聞』1 月 5 日

大政翼賛の歴史的意義『台湾日日新報』1 月 5 日

転換期日本の指標[1940 年 12 月 12 日紀元二千六百年創立十五周年記念記念大講演会於共立講堂]『講演』493、1 月 10 日

大島大使の行を壮して[1 月 15 日於日比谷公会堂]『旬刊講演集』593、1 月 30 日

時論『東大陸』19-2、2 月 1 日【非常時警報に驚く勿れ、難局に処して積極的なれ、国論何ぞ起らざる】

*日本の政治的対米神経『時潮』7-2、2 月 15 日

高度政治は金銭によりて購はれず―我等の決意を遮る嶮路なし―『経済市場』12-3、3 月 1 日

時論『東大陸』19-3、3 月 1 日【戦勝要素としての政治指導力、帝国議会と大政翼賛会、日本は声明し、英米は行動す】

三国同盟の威力を発揮せよ[1 月 15 日大島駐独大使壮行会於日比谷公会堂][「太平洋問題特輯」]『雄弁』32-3、3 月 1 日

時論『東大陸』19-4、4 月 1 日【挙国一致の積極性を高調す、大政翼賛会を去るの辞、神機を捉ふる者は勝つ、日本精神を官僚化する勿れ、非理法権天】

松岡外相を鞭撻す『改造』23-8、4 月 2 日

現下日本の政治経済の針路[3 月 22 日講演速記大要於経済情報社主催時局政経懇話会]『経済情報 政経篇』16-5、4 月 10 日

*われらの決意は固し『時潮』7-4、4 月 15 日

嵐に立つ日本の政治戦略[3 月 25 日於日本青年館]『講演』503、4 月 20 日

時論『東大陸』19-5、5 月 1 日【日ソ中立条約の活用、構想と体制と運営、大政翼賛と行政翼賛】

大東亜建設への道『市町村雑誌』569、5 月 15 日

若き精神力[「日曜随想」]『都新聞[夕刊]』5 月 19 日

国難打開の体当り[5 月 1 日講演速記録､東方会主催難局突破国民有志大会於両国国技館]『東大陸』19-6、6 月 1 日

剣をも支配するもの『時潮』7-6、6 月 15 日

質問に答へて所懐を陳ぶ[「公開状 政治力強化の問題につき「革新政党」の所信をただす」への回答文]『新経済』1-4、6 月 15 日

欧州大戦の将来と日本の前途『実業之世界』38-7、7 月 1 日

日本の将来を論ず『ダイヤモンド』29-19、7 月 1 日

時論『東大陸』19-7、7 月 1 日【汪精衛声明の政治性、本多大使の政治性、松岡外相の対米観、独英両国の闘志】

飛躍日本の新構想を語る『陸軍画報』9-7、7 月 1 日[座談会：尾崎士郎、沢畑養一郎、下中弥三郎、道家斎一郎、本社記者]

時論『東大陸』19-8、8 月 1 日【第三次近衛内閣と人心復興、新田義貞の家訓】

*政治力強化の源泉『時局』8 月

時論『東大陸』19-9、9 月 1 日【英米両巨頭の共同宣言、極東問題と英米宣言、逐客兵填周池】

ルーズベルト、チヤーチルに答へて日本国民に告ぐ[9 月 13 日於日比谷公会堂]『旬刊講演集』617、9 月 30 日

*ルーズヴェルト、チヤーチルに答へて日本国民に告ぐ『講演の友』187、9 月下旬

三国同盟一周年を迎へて『イタリヤ』1-7、10 月 1 日

映画を観て感あり『映画之友』1-10、10 月 1 日

ルーズヴェルト、チャーチルに答へて日本国民に告ぐ！『東大陸』19-10、10 月 1 日

『三国同盟と大東亜建設』を語る『東洋経済新報』1941、10 月 5 日[対談：杉森孝次郎]

読者に告ぐ『旬刊時事特輯』106、10 月 11 日

質実剛健の青年こそ国運進展の推進力だ[「これを青年に望む」]『大日本青年』4-20、10 月 15 日

我国と緊迫せる国際情勢―帝国不動の態度を堅持せよ―『経済市場』12-11、11 月 1 日

日本の正義『公論』4-11、11 月 1 日

重ねて告ぐ『旬刊時事特輯』108、11 月 1 日

時論[「近衛メッセージと米国の謀略」「復々奇蹟!?独軍の進出」]『東大陸』19-11、11 月 1 日

東条内閣を鞭撻して迅速的確の行動を要望す『改造』23-22＜時局版 24＞、11 月 2 日

明朗不動の政治を確立せよ『現地報告』50、11 月 10 日[『世界維新の嵐に立つ』収録]

われら如何に処すべきか[11 月 13 日談]『ダイヤモンド』29-33、11 月 21 日

チヤーチルのシュリーフェン計画に備へよ[「時論」]『東大陸』19-12、12 月 8 日

勝呂中尉追弔の辞『東大陸』19-12、12 月 8 日

戦ふ国民の覚悟『経済情報 政経篇』17-1、12 月 10 日

*対日シュリフェン計画『時局月報』[14-12]、12 月

## 1942(昭和 17)年

此一戦『公論』5-1、1 月 1 日[12 月 11 日、徳富蘇峰との対談。『此一戦 国民は如何に戦ふべきか!』収録]

*大東亜戦争の目標『国策研究』13-1、1 月 1 日

彼の戦略を粉砕せよ『新若人』2-10、1 月 1 日

大東亜建設精神基調『東大陸』20-1、1 月 8 日

一億火の玉と成つてぶつかろう 読者に告ぐ『旬刊時事特輯』115、1 月 21 日

*大東亜圏建設の指標『時潮』8-2、2 月

*ルーズヴェルト・チャーチルに三度提言す『日本』2 月

大東亜戦争下の東方会運動『東大陸』20-2､3、2 月 8 日、3 月 8 日[『戦争に勝つ政治』と改題、同年 3 月刊]

大東亜戦完遂と翼賛選挙『報知新聞』3 月 6～9 日[座談会：橋本欣五郎、挟間茂、里見岸雄、吉村正、穂積七郎]

大東亜建設座談会『朝日新聞』3 月 19～24､26､27 日[3 月 17 日座談会：蝋山政道、大蔵公望、岡田菊三郎、芳沢謙吉、中山伊知郎、久原房之助、藤原銀次郎、平出英夫]

指導者的性格とは何か『新若人』3-1、4 月 1 日[座談会：橋本欣五郎、道家斉一郎、駒井徳三、赤松克麿、赤尾好夫、池田佐次馬]

総選挙と東方会『東大陸』20-4、4 月 8 日

*新欧州の指導者ヒトラーの印象『時潮』8-4、4 月

*政治以上の政治『創造』12-6、5 月 1 日

凝集せよ政治力[「新しき会議 紙上登壇」]『東京朝日新聞』5 月 4 日

太閤秀吉[「日本外史講義」]『東大陸』20-5、5 月 8 日

時論『東大陸』20-6、6 月 8 日【大同に就く東方会、思想結社としての東方会、電光影裏春風を斬る、客観下の東方会】

本然の支那に還れ[「大東亜諸民族への公開状」]『東京朝日新聞』6 月 25､26 日

今後の対支方策『都新聞[夕刊]』7 月 1～8 日[座談会：有田八郎、河田烈、近藤英次郎、松井石根、谷萩那華雄]

時論『東大陸』20-7、7 月 8 日【日本青年に苦言す、日支関係の新環境】

*日本青年に与ふ『時潮』8-7、7 月

時論『東大陸』20-8、8 月 8 日【思想結社東方同志会、思想の苗床に通風せよ、国民思想を武装せよ】

時論『東大陸』20-9、9 月 8 日【青年と錬成、国民思想の硬直、西郷と明治維新、新民権運動とは、長期戦の限界性、東条首相と親心、印度の独立と第二戦線、必勝国体々制の確立】

時論『東大陸』20-10、10 月 8 日【長期戦と和平謀略、勝つ国と負ける国の形相、一大猛省－一大躍進】

草莽の赤誠を皇道政治に顕現して大東亜建設のために挺身せよ『世界知識』15-10、10 月 10 日

時論『東大陸』20-11、11 月 8 日【「長期戦」を検討せよ、当局者の精神論、農村の詩】

天下一人を以て興る[11 月 10 日(於早稲田大学大隈講堂)]『東大陸』20-12、21-1、12 月 8 日、**1943 年** 1 月 8 日[弓狩匡純『日本人の誇りを呼び覚ます魂のスピーチ』(廣済堂出版 2014 年)抄録]

日・独・伊盟約一周年に寄す『東京新聞』12 月 11 日

決戦政治の確立『朝日新聞』12 月 17～20、22 日[12 月 16 日座談会(於朝日新聞社):田畑長茂、前田米蔵、山崎達之輔、矢部貞治、中島弥団次、橋本清之助、相川勝六、田中長義、三輪寿壮、津雲国利、小平権一、津久井龍雄]

全銃後結束して長期戦に勝利せよ『やまと新聞』12 月 9 日

## 1943(昭和 18)年

戦時宰相論『朝日新聞』1 月 1 日[マイクロ版で確認、縮刷版は削除後の代替記事掲載]

*長期戦を検討す『国策研究』14-1、1 月 1 日

時論『東大陸』21-2、2 月 8 日【天下は一に帰せん、法三章とその環境、孔明の宣撫工作】

ルーズヴエルトに応対す『東京新聞』2 月 25、26 日

賤ヶ嶽の秀吉『維新公論』7-3、3 月 8 日

ルーズヴェルト大統領に応対す[「時論」]『東大陸』21-3、3 月 8 日

時論『東大陸』21-4、4 月 8 日【颯爽たるヒツトラア総統、真直ぐに行け】

建武中興－後醍醐天皇諸篇－[「日本外史講義」]『東大陸』21-5、5 月 8 日

時論『東大陸』21-6、6 月 8 日【元帥死して余烈あり、陣頭指揮の真意義、世界全戦線の小康と外交の胎動、必勝陣の根柢】

*憐れむべし米国の狂態『北方日本』6 月

難局日本と青年学徒の道[6 月 2 日講演於修猷館]『東大陸』21-7、7 月 8 日

時論『東大陸』21-8、8 月 8 日【ムッソリーニの退場を繞る伊太利情勢、東方同志会員に告ぐ】

時論『東大陸』21-9、9 月 8 日【元寇撃滅の教訓、大死一番の必勝陣】

時論『東大陸』21-10、10 月 8 日【徴兵猶予よりの解放、家門の名誉と滅死(ママ)奉公】

## 1944(昭和 19)年

建武中興(遺稿)『我観』1-3～6、2-1、3、9 月 5 日、10 月 5 日、11 月 5 日、12 月 5 日、**1945 年** 1 月 5 日、3 月 5 日[2-1、3 は、未見]

## 4. 帝国議会衆議院演説

＊『官報号外 衆議院議事速記録』は、『官報号外』と略記した。

### 第 43 特別議会(1920 年 7 月 1 日～28 日)

決議案(尼港問題に関する特別委員会設置)提出の理由説明、7 月 9 日『官報号外』7、1920 年 7 月 10 日

### 第 44 回通常議会(1920 年 12 月 27 日～1921 年 3 月 26 日)

台湾に施行すべき法令に関する法律案への質問、1 月 29 日『官報号外』8、1921 年 1 月 30 日

対露政策に関する決議案の提出理由の説明、2 月 5 日『官報号外』11、1921 年 2 月 6 日[「西伯利撤兵論」と題して『国民に訴ふ』収録]

決議案(朝鮮統治に関する調査委員会設置の件)提出理由の説明及び質問への答弁、2 月 25 日『官報号外』19、1921 年 2 月 26 日

### 第 45 通常議会(1921 年 12 月 26 日～1922 年 3 月 25 日)

衆議院規則中改正案への質問、10 月 27 日『官報号外』2、1921 年 10 月 28 日

国務大臣の演説に対する質問、1 月 25 日『官報号外』6、1922 年 1 月 26 日

決議案(ワシントン会議の経過に関する件)提出の理由説明、2 月 18 日『官報号外』14、1922 年 2 月 19 日

漢学振興に関する建議案について質問、3 月 6 日『官報号外』23、1922 年 3 月 7 日

### 第 46 回通常議会(1922 年 12 月 27 日～1923 年 3 月 26 日)

国務大臣の演説に対する質問演説、1 月 24 日『官報号外』4、1923 年 1 月 25 日

武器問題について質問『予算委員会議録(速記)』5､6、1923 年 1 月 31 日、2 月 1 日

日支郵便約定問題の顛末を公開する決議案への賛成意見、2 月 3 日『官報号外』8、1923 年 2 月 4 日

ロシア政府承認決議の提出について説明、3 月 20 日『官報号外』35、1923 年 3 月 21 日

### 第 51 回通常議会(1925 年 12 月 26 日～1926 年 3 月 25 日)

政友会議員小川平吉・小泉策太郎・秋田清・鳩山一郎を査問委員会に付託する動議提出の理由説明および一身上の弁明、3 月 4 日『官報号外』24、1926 年 3 月 5 日

議員中野正剛君の行動に關する調査の件について弁明『衆議院議員梅田寛一君ノ行動ニ関スル調査ノ件他三件委員会議録(速記)』7､9、大正 15 年 3 月 20､24 日

### 第 53 回臨時議会(1927 年 5 月 4～8 日)

枢密院の奉答に関する決議案の提出理由の説明および質問への回答、5 月 7 日『官報号外』4、1927 年 5 月 8 日[「枢密院弾劾演説」と題して『国民に訴ふ』収録]

### 第 55 回特別議会(1928 年 4 月 23 日～5 月 6 日)

田中総理大臣に質問『予算委員会議録(速記)』6、5 月 4 日

内相の処決等に関する決議案の賛成演説、5 月 4 日『官報号外』7、1928 年 5 月 5 日

### 第 56 回通常議会(1928 年 12 月 26 日～1929 年 3 月 25 日)

満州某重大事件に関する質問、1 月 25､26､29 日『予算委員会議録(速記)』2､3､5、1929 年 1 月 25､26､29 日[「対支重大問題の一問一答」と題して『国民に訴ふ』収録]

### 第 58 回特別議会(1930 年 4 月 23 日～5 月 13 日)

政府委員(遞信政務次官)として答弁『船舶業組合法案外一件委員会議録(速記)』1、5 月 9 日

### 第 63 回臨時議会(1932 年 8 月 23 日～9 月 4 日)

時局匡救対策について質問、8 月 25 日『官報号外』3、1932 年 8 月 26 日

### 第 65 回通常議会(1933 年 12 月 26 日～1934 年 3 月 25 日)

斉藤内閣の時局認識に関する質問、1 月 25 日『官報号外』5、1934 年 1 月 26 日[「非常時の本質如何(斉藤内閣を難詰す)」と題して『第六十五回帝国議会代表雄弁集』(日本講演通信社、1934 年 3 月 21 日)、「非常時は解消せず」と題して『中野正剛氏大演説集』収録]

### 第 66 回臨時議会(1934 年 11 月 28 日～12 月 9 日)

国務大臣の演説に対する質問、12 月 1 日『官報号外』4、1934 年 12 月 2 日

### 第 70 回通常議会(1936 年 12 月 26 日～1937 年 3 月 31 日)

林首相兼外相への質問、2 月 18 日『官報号外』8、1937 年 2 月 19 日

### 第 72 回臨時議会(1937 年 9 月 4～8 日)

日支戦争遂行方針について質問、9 月 5 日『官報号外』2、1937 年 9 月 6 日